

平成17－20年度

カリキュラム作成資料

わくわく せいかつ **上**
いきいき せいかつ **下**



明日の世代に
啓林館

❖ごあいさつ

平成17年度よりご使用の生活科教科書につきまして、啓林館発行の「わくわく せいかつ上」「いきいき せいかつ下」をご採択いただき、誠にありがとうございます。心より厚く御礼申し上げます。

この教科書の指導書の完成までには、なおしばらくの日時を要します。ご了承下さい。そこで、カリキュラム作成や教科書全容の研究などのための資料を本冊子にまとめました。各巻の単元の目標・評価規準、小単元の目標・評価規準、配当時間、主な活動、準備などを掲載しております。

ご参考にしていただければ幸いです。

❖カリキュラム作成の手順

1. 学校全体のカリキュラム見直しを行う

平成10年の学習指導要領では、これまで第1学年と第2学年に分けて示されていた12項目の内容が、2学年まとめて8項目に再構成されました。地域や児童の実態に応じた弾力的な指導、多様な活動や体験をいっそう展開できるようにするために、また、第3学年以上には「総合的な学習の時間」も設定され、各学校独自のカリキュラム開発が必要とされています。子どもの興味や関心、地域環境の特色に応じた教材の選択や開発など、各教師、各学校の創意工夫が求められ、期待されています。

自校のカリキュラム検討にあたっては、学習指導要領の趣旨を十分に理解した上で、昨年までのカリキュラムを教師、子ども、保護者、地域の支援者らの感想や意見、提案なども含めてふり返り、継続すべき活動と改めるべき活動とを見定めていく必要があります。この作業を綿密に行わなければ、前年度の失敗を繰り返すことにつながるだけでなく、マンネリ化に陥りかねません。

2. 単元となる活動のまとめを考える

昨年度の活動をふり返り、学校や地域の実態、低学年の生活のようす、教師の願いなどをもとに活動のまとめをイメージします。

⇒生活科の「8つの内容」、教科書などを参考に活動を考えます。

⇒学校全体の「研究テーマ」や「育てたい力」などから、今年度の生活科のテーマや強調点を考え、それをもとに活動を構想していくことも可能です。

3. 単元目標を設定する

学習指導要領に示された教科目標・学年目標（2学年共通）・内容も十分考慮に入れながら、目標を考えます。

⇒指導要録の3つの観点「生活への関心・意欲・態度」、「活動や体験についての思考・表現」、「身近な環境や自分についての気付き」から、目標を考えることもできます。

4. 2年間を見通して単元配列、配当時間を考える

第1学年から第2学年までの全体を見通して、2年間のスパンで学習活動のまとめを配置していきます。

- ❖ まず、季節や地域行事にかかわる活動のまとめを該当の時期に配置します。
- ❖ 1・2年生の交流活動やその他の学年との交流活動を計画する場合は、それぞれの学年で話し合い、計画に盛り込んでいきます。
- ❖ 生活科の2年間を通して「8つの内容」を視点にし、学習内容の全体的なバランスを考え、配当時間も考慮に入れて決めていきます。

5. 単元名を考える

それぞれの活動のまとめごとに、子どもたちの興味や関心を引く魅力ある単元名をつけます。

- ❖ 学校全体を通しての研究テーマや今年度の生活科のテーマをもとに、各単元のつながりを意識した一連の単元名で構成するのも一案です。

6. 単元の展開計画を立てる

子どもの学習意識の流れに十分配慮しながら、単元の展開計画を立てます。

- ❖ 子どもの興味や関心をもとに、学習を始めることや、具体的な活動や体験を通して学習を進めること、子どもの思いや願いを多様な方法で表現すること、活動が日常化するように配慮することなどに留意しながら、できるだけ具体的に計画を立てます。
- ❖ 活動を進める上で、活動の場の設定や学校内外の支援者の確保は不可欠です。この段階から意識して展開計画を立てるようになります。

7. 配当時間を調節する

すべての活動が、第1学年での102時間、第2学年での105時間の範囲に収まるよう時間を配当します。

- ❖ 子どもが主体的に活動し、対象に深くかかわることができるよう、ゆとりを持って各単元の配当時間を決めていきます。
- ❖ 学期ごとに数時間のゆとりを設けておくようにします。活動が広がり、時間がオーバーしたときなどに調整できます。
- ❖ 動植物教材などの継続的な観察や飼育については、休み時間なども活用するようにすると、時間的なゆとりを生じさせることができます。

※本資料は、啓林館Web Station
<http://www.shinko-keirin.co.jp/>から
ダウンロードしてご利用いただけます。

- ・カリキュラム作成の手順……p. 1
- ・年間活動計画案(3学期制)…p. 2
- ・年間活動計画案(2学期制)…p. 4
- ・学習内容一覧表……………p. 6
- ・各単元の活動……………p. 8

「わくわく せいかつ上」「いきいき せいかつ下」年間活動計画案(3学期制)

第1学年

		1学期…33時間(30+ゆとり3)						
月	単元名／小単元名	4	5	6	7	8	9	
	(春休み)	（適応指導期間）(3) いちねんせいになつたよ(14) みんながあるかな(3) みんなかよし(3)	ゴールデンウィーク	ぐるぐるのびら／種まき・世話を(4) さあ、たんけんだ(6)	なにをしてもうかな(7) あそびばくいじ(7)	たのしいなつやすみ(1) あつくなつてきたね(4) なつかきたよ(5)	(夏休み)	ぐるぐるのびら／種取り・球根植えつけ(8) (おひこ)(8)
	飼育・栽培活動	小動物にふれる (以降継続して関わる)	花の種まき	開花	（以降継続して世話・観察）	花の種取り	秋の虫探し	
	(春休み)	小生物の飼育 トンボの産卵(やってみよう)	野菜の苗植え	夏野菜の収穫	（以降継続して世話・観察）	秋野菜の収穫		
月	単元名／小単元名	4	5	6	7	8	9	
	(春休み)	町をたんけんしよう(6) さあ、さくせんかいぎだ!(2) レツツゴー！町たんけん(16) とわだちいつぱり なかよくしょくね(4)	ゴールデンウィーク	わくわく夏休み(1) ぐるぐるのびら／苗植え・夏野菜収穫(4) 町に夏がやっとてきた(3) やさしい町なんだ(点字他) おれいの氣もちゃんとじうかよつ(1) はつからんしたじと、おひのせします(3)	(ゆとり)(3) (ゆとり)(3)	(夏休み)	くふうしてみよう(1) つくってあれぱり(1) あそび大きあつまれ！(10) (おひこ)(3)	
		1学期…36時間(33+ゆとり3)						

2学期…42時間(37+ゆとり5)				3学期…27時間(20+ゆとり7)			
10	11	12	1	2	3		
げんきにやだご／小動物の世話(4) だいすきだよ(8)	なにをしてもがむかな(7) あきになつたねきもちがいine(17)	もうすぐお正月(一) たのしみだねふるやすみ(1) やつてみよう！(あきをばかう(一)) さあ、あつあれあきフエスター！(2) あそぼうかざりう(6)	(冬休み) おひる(3)	やつてみよう！(じつよにあわせ(1)) むかしからのあそびをしよう(1) きたかぜとともにだら(4) わくわくふみがやつてまた(9)	あたひじこーねんせこがくねよ(6) おむじでかこひめこだきだよ(10) たのしかつたねーねんかん(11)	(春休み) (おひる)(4)	
→ ● →	小動物の世話	(以降継続して世話をする)					
(やってみよう)							
球根の植えつけ ・調理・冬野菜の種まき	(以降継続して球根の観察)		開花				
	(以降継続して世話・観察)		(冬野菜の収穫)				
やつてみよう！(秋の虫探し)	ぐんぐんのびる ／収穫・調理・冬野菜の種まき(8)	町に秋がやつてきた(8) もつとしりたいな町のいと(12)	(冬休み) (おひる)(4)	わくわくタウンフエスター(2) わたしは町はかせ(10) みんな大きくなつたよね(17)	おじたじむかうじ…(2) おれじの氣もちをつたえよつ(2) じぶんのものがたりをまとぬよつ(6) できるようになつたよ(4) じぶんたんけんにしゅうぱうだ(3)	(春休み) (おひる)(3)	
10	11	12	1	2	3		
2学期…42時間(35+ゆとり7)				3学期…27時間(24+ゆとり3)			

「わくわく せいかつ上」「いきいき せいかつ下」年間活動計画案(2学期制)

第1学年

第2学年

1学期…49時間(46+ゆとり3)

月	4	5	6	7	8	9
単元名／小単元名	(春休み) （適応指導期間）(3)	いちねんせいになつたよ(14) みんながあるかな(3) みんなかよし(3)	ゴールデンウィーク さあ、たんけんだ(6)	ぐんぐんのびる／種まき・世話を(4) さあ、たんけんだ(6)	なつがきたよ(5) なにをしてあそぼつかな(7) あそびばへい(7)	(夏休み)
飼育・栽培活動						
単元名／小単元名	(春休み)	町をたんけんしよう(6) さあ、さくせんかいぎだ!(2) レツツゴー！町たんけん(16) ともだちいっぽい なかよくしょくね(4)	ゴールデンウィーク	わくわく夏休み(1) ぐんぐんのびる／苗植え・夏野菜収穫(4) 町に夏がやってきた(3) やさしい町なんだ(点字他) おれいの氣もぢをじじけよつ(一) はっけんしたこと、おひのせします！(3)	(ゆとり)(3) わくわく夏休み(1) ぐんぐんのびる／苗植え・夏野菜収穫(4) 町に夏がやってきた(3) やさしい町なんだ(点字他) おれいの氣もぢをじじけよつ(一) はっけんしたこと、おひのせします！(3)	(夏休み)
月	4	5	6	7	8	9
	1学期…52時間(49+ゆとり3)					

2学期制について

現在、全国で2学期制の試行がされています。授業日数や休業日数は3学期制と変わらないところが多いようですが、1、2学期の切れ目に秋休み(体育の日に続く数日間の場合が多い)を設ける場合が多く、その休みをどこから捻出するかが課題です。

2学期…50時間(41+ゆとり9)

10	11	12	1	2	3
だいすきだよ(8) いえでもチャレンジ!!(3) しごとめいじんになれるかな(3) いえでこんなことをしたよ(2)	あきになつたねきもちがいいね(17) なにをしてもうつかな(17) げんきにそだて／小動物の世話(4)	(秋休み)	(冬休み)	あたひこつーねんせこがくわよ(6) おもじでがくひめできたよ(6) たのしかつたねーねんかん(11) やつてみよう!(じつよにあわせよ!!) むかしからのあそびをしよ(6) きたかぜとともにだら(4) わくわくふわがやつてまた(9) (ゆづ)(3)	(春休み) (ゆづ)(4)

→ ● → 小動物の世話 (以降継続して世話をする)

(やってみよう)

10	11	12	1	2	3
町に秋がやつてきた(8) もつとしりたいな町のひと(12)	ぐんぐんのびる ／収穫・調理・冬野菜の種まき(8)	(秋休み)	(冬休み)	あしたにむかうべ…(8) おれいの氣もちをつたえよ(8) じぶんのものがたりをまとぬよ(6) できるようになつたよ(4) じぶんたんけんにしゅつけだ(3) みんな大きくなつたよね(17) わくわくタウンフェスター(8) わたしは町はがせ(6)	(春休み) (ゆづ)(3)

2学期…50時間(43+ゆとり7)

「わくわく せいかつ上」「いきいき せいかつ下」学習内容一覧表

単元名	項目(●は小単元)	学習指導要領の8内容							
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
わくわく せいかつ 上	いちねんせいになったよ	●みんななかよし ●なにがあるかな ●さあ、たんけんだ (ぐんぐんのびろ) ●がっこうのまわりをさんぱしようよ	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
	あそびばへいこう	●なにをしてあそぼうかな		○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
	なつがきたよ	●あつくなってきたね (たのしいななつやすみ) (ぐんぐんのびろ) (げんきにそだて)	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	だいすきだよ	●いえでこんなことをしたよ ●しごとめいじんになれるかな ●いえでもチャレンジ!!	○ ○ ○						○
	あきになったねきもちがいいね	●なにをしてあそぼうかな ●あそぼうかざろう (たのしみだねふゆやすみ) (もうすぐお正月)		○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	わくわくふゆがやってきた	●きたかぜと ともだち ●むかしからの あそびを しよう	○ ○		○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
	たのしかったね1ねんかん	●おもいでがいっぱいできたよ ●あたらしい 1ねんせいが くるよ	○ ○	○ ○		○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
	ともだちいっぱいなかよくしうね	ともだちいっぱいなかよくしうね	○						○
	レッツゴー！町たんけん	●さあ、さくせんかいぎだ！ ●町を たんけんしよう ●はっけんしたこと、おしらせします！ ●おれいの 気もちを とどけよう ●町に 夏が やってきた (ぐんぐんのびろ) (げんきにそだて) (わくわく夏休み)		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	
	あそび大すきあつまれ！	●つくってあそぼう ●くふうしてみよう		○ ○		○ ○	○ ○	○ ○	○
いきいき せいかつ 下	もっとしりたいな町のこと	●町に 秋が やってきた ●秋の 町を見てきたよ (もうすぐ冬休み) (ぐんぐんのびろ)		○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	こんなすてきな町なんだ	●町に 冬が やってきた ●わたしは 町はかせ		○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
	みんな大きくなったよね	●じぶんたんけんに しゅっぱつだ ●できるようになったよ ●じぶんの ものがたりを まとめよう ●おれいの 気もちを つたえよう ●あしたにむかって…		○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○				○ ○ ○ ○ ○

活動内容

目指す子どもの姿

遊ぶ、探検する、話す、聞く、歌う。身体で表現する。絵やカードをかく。学校の植物や動物にふれる。	友達と仲よく遊ぶ。学校の人々や生き物、事物に自分からかかわる。学校にじみ、楽しく学校生活を送る。見つけたことや気付いたことを知らせあう。
花や野菜の種をまき、意欲的に育てる。	楽しみながら意欲的に植物を育てる。
交通に注意しながら、学校の周りに出かける。	安全に留意して通学したり、学校のまわりで活動したりできる。
公園や野原で遊具や自然物を使って遊ぶ。	地域の人々や自然にかかわり、親しむ。
水や土、砂で遊ぶ。雨の日に遊ぶ。夏休みの計画を立てる。(話し合い、製作など)	夏や梅雨の季節を工夫して楽しく遊ぶ。夏休みを意欲的に元気に過ごす。
花や種、野菜を収穫する。秋植えの花や野菜を植える。学校の生き物の世話をする。	収穫や生命の誕生を喜び、慈しむ。生命の連続性に気付く。
楽しかったことや仕事の紹介・実演を行い、さらに家でも実践する。	自分にもできる仕事を見つけ、家族の一員として自覚する。家族を見つめ直し、いっそう好きになる。
秋の公園や野原で遊具や自然物を使って遊んだり、地域の人とふれ合ったりする。	季節を体感し、楽しむ。自然の中で遊びこんだり、製作活動を行ったりする。地域の人々や自然と積極的にふれ合う。
冬休みの計画を立てる。(話し合いなど) 生活すごろくを作る。	冬休みを意欲的に元気に過ごす。
寒さに負けず、元気に遊ぶ。伝承遊びをしたり、おもちゃを作って遊ぶ。	季節の中で元気に遊び、生活する。伝承遊びを楽しみ、広げる。
1年間の楽しかったことや自分の成長を振り返る。新入生を迎える準備をする。春見つけをする。	自分の成長を実感する。上級生になる期待と意欲をもつ。早春の季節を体感し、楽しむ。
進級を喜び、新入生を迎える。	進級した喜びと自覚をもつ。
町探検の計画・準備をし、出かける。町の人と話し、聞き、記録する。いろいろな方法で発表したり、お礼の気持ちを届けたりする。	計画を立て、グループで安全に行動できる。季節を楽しむ感性を身につける。町の人々や自然、公共施設に積極的にかかわる。場に応じたマナーを身につける。
花や野菜を植え、意欲的に育て収穫する。生き物を採集し、育て方を調べ、飼育する。	期待をもって花や野菜を育て通す。生き物に親しみ、命あるものへの接し方を知る。
夏休みの計画を立てる。(話し合い、製作など)	夏休みを意欲的に元気に過ごし、地域の人たちとの交流をはかる。
おもちゃを作って遊ぶ。作ったおもちゃについて、さらに工夫を加える。	自分なりに工夫しておもちゃを作る。遊び方や装飾などさらにおもちゃに工夫を加える。
秋の町探検に出かけ、秋の事象を探したり、町や人々とのかかわりをさらに深めていく。	計画を立て、グループで安全に行動できる。季節と事象の変化に気付く。町の自然や人々とかかわり、町を見つめなおす。
冬休みの計画を立てる。(話し合いなど)	冬休みを意欲的に元気に過ごし、地域との交流をはかる。
秋野菜を収穫し、祝い、食べる。秋まきの花や野菜を植える。	育てた野菜の収穫を喜ぶ。
冬の町探検に出かけ、冬の事象を探し、町や人々とのかかわりを深める。一年間かかわってきた町を振り返り、まとめ、発表する。	計画を立て、グループで安全に行動し、季節と事象の変化に気付く。町を見つめなおし、自分なりにまとめ、発表できる。
成長を振り返り、現在の自分を確認する。できるようになったことを発表し合う。自分の成長の物語をまとめる。今までにお世話になった人に対してお礼の気持ちを伝える。進級への抱負を発表し合う。	成長を実感し、今の自分に自信をもつ。友達の成長もわかり、互いに喜び合う。成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつ。自信と意欲をもって進級する。

学習指導要領の 8内容

①学校と生活

にかわる内容

②家庭と生活

にかわる内容

③地域と生活

にかわる内容

④公共物や公共施設の利用

にかわる内容

⑤季節の変化と生活

にかわる内容

⑥自然や身近なものを使って遊びを工夫したり楽しんだりすること

にかわる内容

⑦動植物の飼育栽培

にかわる内容

⑧自分の成長

にかわる内容

いちねんせいになつたよ

教科書上P.2~19、26~27
14時間/4~6月

単元の目標

学校という新しい環境のなかで、身近な人やものに積極的にかかわり、安全で楽しく過ごすことができる。

単元の評価規準

●生活への関心・意欲・態度

学校の施設、学校生活を支えている人々や友達および通学路のようすなどに関心をもち、学校生活を楽しもうとしている。

●活動や体験についての思考・表現

楽しく安心して遊びや生活および登下校ができ、身近な人々に自分の思いや伝えたいことを素直に伝えることができる。

●身近な環境や自分についての気付き

学校にあるいろいろな施設、学校生活を支えている人々や友達、通学路のようすや安全な登下校のしかたに気付いている。

小単元の目標	活動の概要	主な準備
<p>いってきます～たのしい ことが いっぱいあるよ。(適応指導期間)</p> <p>元気よくあいさつしたり、話したりでき、交通安全に気をつけて登校することができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">登校するときのようすについて話し合う。1年生になった喜びや期待を自由に出し合ったり、遊んだりする。学校でどんなことをするのか知る。	通学路の危険個所を示した資料（写真、音、映像その他）、「ひとりで着替える」など自立への基礎を示した絵やカード
<p>みんな なかよし (3時間)</p> <p>自己紹介やゲームなどを通して、友達の名前を覚えたり、みんなと仲よくしたりすることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">自己紹介をし、友達の名前を覚える。簡単な歌やゲームを楽しむ。サイン集め大会をする。	歌って遊べる簡単な歌、オルガン、CDプレイヤー、サイン集めカード（画用紙、バインダーなど）、多目的室や生活科室の準備
<p>なにが あるかな (3時間)</p> <p>学級のみんなと一緒にになって、約束を守りながら楽しく遊ぶことができる。</p> <p>校庭の動植物とふれあったり、見つけたものや気付いたことを教え合ったりすることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">校庭に出て、好きな場所を散歩したり、遊んだりする。校庭で、グループや学級みんなと楽しく遊ぶ。校庭で見つけたことや、楽しく遊んだことなどを話す。飼育小屋や花だん、畑へ行き、動物や植物とふれあい、気付いたことや感じたことを発表する。	校内案内図、カメラ（活動のようす、定点観測ポイントを記録する。）、虫めがね（使い方はきちんと指導する。）、記録カード、図鑑、飼育委員会との打ち合わせ
<p>さあ、たんけんだ (6時間)</p> <p>学校で働いている人々や施設に関心をもち、上級生や、学校生活を支えている人々と進んでかかわることができる。</p> <p>発見したことを友達や教師、家の人になどに知らせることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">2年生や教師から学校探検の話を聞き、一緒に学校探検をする。学校探検をした感想を出し合う。自分たちだけで、探検に行く準備をする。グループで、学校探検する。探検で気付いたこと、楽しかったことなどを話し合い、教師や友達に伝える。	学校探検を全校で行うことの打ち合わせ、各教室の案内表示、探検マップ、校内案内図、インタビューや質問のためのマニュアル、記録カード、バインダー
<p>がっこうの まわりを さんぼしようよ (2時間)</p> <p>春の町を体感するとともに、通学路のようすがわかり、安全な登下校ができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">学校の周りで、行ってみたい所を話し合う。学校の周りを、みんなで散歩する。	校外活動のための届け出や協力依頼、ホイッスル、携帯ブザー、携帯電話、名簿、救急用品、小銭

計画上の留意点

○子どもの生活や意識に合った活動にアレンジを

子どもや学校、地域の実態など、様々な条件によって活動の順序や学習対象を変えたり、年間計画の重点化・焦点化をはかったりするなど、子どもの生活や意識に密着した活動になるよう創意工夫していきたい。

○異学年との交流活動を積極的に

学校探検や学校の周りでの活動は、2年生との合同活動にしたり、ペア（きょうだい）学年との行事や学習などと関連させたりして、学校のなかで最も身近な異学年の子どもたちとの交流をはかるようにしたい。

○活動や体験を通して基本的な生活習慣の意識付けを

本単元では、これからの中学校生活を楽しく豊かにするために、自分でできることは自分でするということや、安全な生活を送るために必要なこと、友達やいろいろな人々とのかかわりかたなど、体験を通して基本的な生活習慣を学ばせるとよい。

評価規準		
生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き
①友達や先生と元気よくあいさつしたり、意欲的に話したりしようとしている。	①1年生になった思いを、自分なりの言葉で話すことができる。	①安全な登下校のしかたに気付いている。
②身体表現を交えて、楽しそうに歌ったり遊んだりしている。 ③友達や先生に関心をもち、進んでかかわろうとしている。	②みんなの前で、自分の名前を言ったり、簡単な自己紹介することができます。	②新しい友達ができる喜びに気付いている。
④のびのび楽しく遊んでいる。 ⑤みんなと遊び、友達とのかかわりを深めようとしている。 ⑥動物にかかわろうとしたり、一緒に遊ぼうとしている。 ⑦校庭の草花や野菜に興味をもち、自分も育てたいという思いをふくらませている。	③楽しかったこと、気付いたことなどを言葉や動作その他で伝えることができる。 ④動物や植物とかかわり、それらの特徴をとらえ、いろいろな方法で表現することができます。	③いろいろな遊びを通して、友達と遊ぶ楽しさに気付いている。 ④学校にはいろいろな動物や植物が存在することに気付いている。
⑧案内役の2年生や同じグループの友達と楽しく探検している。 ⑨学校の施設やそこで働く人々に関心をもち、くわしく探検しようとしている。	⑤2年生やその他かかわってくれた人々に自分の思いを素直に伝えることができる。 ⑥自分の行きたい所、かかわりたいもの・人などを決めて、積極的に学校探検をすることができる。 ⑦学校探検での気付きを思い思いの方法で伝えることができる。	⑤学校探検を通して、学校で働く人々、上級生などの存在に気付いている。 ⑥学校の施設や用具などのようすやそれらの利用のしかたがわかる。
⑩学校の周りのようすや自然、様々な人々に関心をもって活動しようとしている。	⑧散歩で気付いたことを言葉などで伝えることができる。	⑦活動を通して、安全な登下校をすることの大切さに気付いている。

ぐんぐん のびろ

教科書上P.20~25、40、44~49、89、下P.3、35、53、67
1年12時間/5~10月、2年12時間/4~11月

単元の目標

身近な植物に興味・関心をもち、それらに生命があることに気付くとともに、植物を大切にすることができるようになる。

単元の評価規準

●生活への関心・意欲・態度

植物を意欲的に育てたり、その成長に興味・関心をもつ。

●活動や体験についての思考・表現

植物を育てながら気付いたり感じたりしたことを、自分なりの方法で表現することができる。

●身近な環境や自分についての気付き

植物が生命をもっていることや成長していることに気付いている。

●主に花を栽培する場合(1年生を想定)

小単元の目標	活動の概要	主な準備
土づくり～種まき (2時間) 自分が育てたい花を決め、成長を楽しみにしながら種をまくことができる。	1. 何を育てるか考える。 2. 土づくりをし、種をまく。 3. 水やりや世話ををする。	種、苗、栽培道具（じょうろ、学習園、植木鉢、プランター、土、肥料、移植ごて、スコップ、軍手）、支柱・ひも（成長に応じて）、図鑑、カメラ、ビデオ、観察カード、カードを掲示する場所・もの、地域の詳しい方との連絡（必要に応じて）
発芽～世話 (1時間) 自分が育てている花の世話を続け、成長の変化に気付くことができる。	1. 芽を観察する。 2. 発見や感想などをカードにかく。 3. 成長に応じた世話をする。	
開花～種とり (2時間) 自分が育ててきた植物が成長し、花を咲かせたり種ができたりしたことを喜ぶことができる。	1. 花を使って様々な遊びを行う。 2. 自分たちが育ててきた花の種とりをする。 3. 栽培してきた花の成長の記録をまとめること。	ハウチ用機器、のり、はさみ、クリヤン、染めるもの（ハンカチ、うちはわ、古いTシャツなど）、ぐんぐんニュースコーナーを作る材料、ビニル袋、カップ、記録したカード
種とり～後始末 (5時間) 種や実、その他を使って、プレゼントや作品などを工夫して作ることができる。	1. 種や実などの使いみちを考える。 2. つるや種などを使った造形活動をする。 3. 植木鉢や学習園の後始末をする。	昨年度の作品（見本）、種袋用紙、造形活動のための用具（セロハンテープ、接着剤など）、畑を耕す用具（くわ、スコップ、移植ごてなど）
秋まきの花の栽培 (2時間) 自分が育てる秋まきの植物を決め、成長に応じた世話をすることができます。	1. 秋まきの植物を調べ、育てる種類を決める。 2. 種まきや球根植えなどをする。 3. 世話を続ける。	秋まきの植物の種、苗、球根、栽培道具、図鑑、カメラ、ビデオ、観察カード、カードを掲示する場所・もの、地域の詳しい方との連絡（必要に応じて）

ここに示した各学年12時間の配当時間は、1年「きょうからいちねんせい」内に4時間、「なつがきたよ」～9月に8時間、2年「レッツゴー町たんけん」内に4時間、「もっとしりたいな町のこと」内に8時間配当を想定しています。

計画上の留意点

○学校や地域の実態に応じた柔軟な計画を

栽培する植物の種類や時期などは、学校や地域によって大きく異なるので、児童の先行経験や興味・関心を大切にしながら決めていくようにしたい。ここでは、学年ごとに学習園があり、児童一人ひとりに植木鉢が準備できる学校を想定して展開計画を考えている。なお、1年生と2年生の栽培する植物の選定にあたっても同じく、学校や児童の実情に合わせて弾力的に対応していきたい。

○2年間の見通しをもって

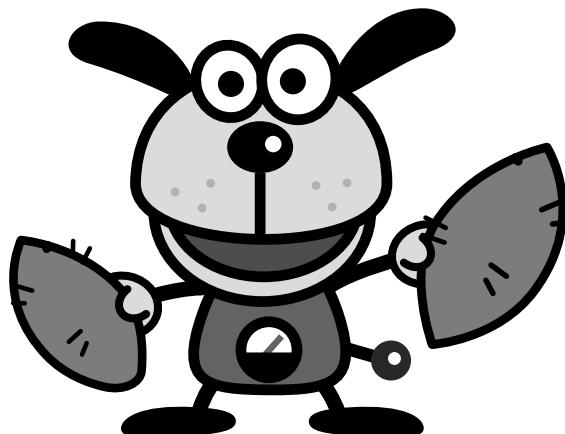
栽培活動は、季節をまたぎ長期にわたることが多い。また、生命をもつものを対象にするために、継続的な活動が必要になる。事前の準備や日常の世話、事後の活動を見通した計画を立てるようになたい。さらに、2年間の活動に広がりや深まりができるように、見通しをもって臨むようになたい。

達成目標や評価規準を検討する際にも、1年次と2年次で程度を変えるなど、配慮が必要である。

評価規準			
生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き	
①発芽を楽しみにしながら、種まきをしようとする。	①育てたい植物を決め、種まきをすることができる。	①種や苗には、いろいろな種類があることに気付いている。	
②植物の世話を続けている。	②見つけた変化を、表現することができる。	②植物が成長していることに気付いている。	
③咲いた花やできた種に喜びを感じている。	③植物の成長のようすを、自分なりに表現することができる。	③収穫した種が、まいた時の種と同じ形や大きさをしていることに気付いている。 ④世話ができるようになった自分の成長に気付いている。	
④植物の後始末をしたり、種や実などをを使ったプレゼントや作品を作ったりしようとしている。	④自分なりに工夫して、プレゼントや作品を作ることができる。	⑤自分の作品のよいところやがんばりに気付いている。	
⑤成長を楽しみにしながら、球根を植えたり種をまいたりしようとしている。	⑤自分が育てる球根や種について調べ、世話をすることができる。	⑥種だけでなく、球根で育つ植物があることに気付くとともに、植物の成長に気付いている。	

●主に野菜を栽培する場合（2年生を想定）

小単元の目標	活動の概要	主な準備
<p>土づくり～種まき・苗植え (2時間)</p> <p>育てたい野菜の種や苗を植え、大切に育て、成長の変化に気付くことができる。</p>	<p>1. 育てる野菜について話し合う。 2. 野菜の種まきや苗植えをする。 3. 成長に応じた世話ををする。</p>	<p>種、苗、栽培道具、支柱・ひも、剪定ばさみ、図鑑、カメラ、ビデオ、観察カード、カードを掲示する場所・もの、地域の詳しい方との連絡（必要に応じて）、調理器具・調味料・料理の本（必要に応じて）、保護者への協力依頼</p>
<p>世話～収穫 (2時間)</p> <p>自分が育ててきた野菜を収穫し、世話をしてきたことを振り返り、収穫の喜びを感じることができる。</p>	<p>1. 繼続して世話をする。 2. 野菜を収穫する。 3. 調理して食べる。</p>	
<p>サツマイモの収穫 (3時間)</p> <p>春から育ててきたサツマイモを、友達と喜びを分かち合いながら収穫することができる。</p>	<p>1. サツマイモ掘りの計画をする。 2. サツマイモ掘りをする。 3. 後始末をし、感想を発表し合う。</p>	<p>収穫した芋を入れるもの、汚れてもよい服、長ぐつ、軍手、スコップ、くわ、観察カード、植木ばさみ</p>
<p>サツマイモの調理 (3時間)</p> <p>大切に育ててきたサツマイモを調理して味わい、収穫を喜ぶことができる。</p>	<p>1. 調理の計画を立て準備をする。 2. 調理をして食べる。 3. サツマイモの世話・収穫・調理などについて表現し合う。</p>	<p>料理計画、料理の本、調理器具、調味料、エプロン、三角布</p>
<p>秋植えの野菜の栽培 (2時間)</p> <p>秋植えの野菜の種をまき、苗を植え、大切に世話をして育てることができる。</p>	<p>1. 秋植えの野菜について話し合う。 2. 野菜の種まきや苗植えをする。 3. 繼続して、野菜の世話や観察を行う。</p>	<p>秋まきの植物の種、苗、球根、栽培道具、敷きわら、図鑑、カメラ、ビデオ、観察カード、カードを掲示する場所・もの、地域の詳しい方との連絡（必要に応じて）</p>



評価規準			
生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き	
①野菜や花の育て方を調べ、種まきや苗植えをし、世話をしようとしている。 ②成長を楽しみに、世話を続けている。	①成長を観察し、そのようすを表現することができる。	①野菜が自分と同じように成長していることに気付いている。	
③喜びを感じながら、収穫しようとしている。	②世話と成長を振り返り、自分なりにまとめることができる。	②野菜の成長のようすや世話のしかたに気付いている。	
④喜びを感じながら、サツマイモを収穫しようとしている。	③サツマイモを収穫した喜びを、様々な方法で表現できる。	③サツマイモの成長の過程を振り返り、その成長に気付いている。	
⑤安全に気をつけながら、調理し、味わおうとしている。	④食べて気付いたことなどを表現できる。	④おいしく食べられたことに満足感をもち、自分の世話へのがんばりに気付いている。	
⑥種まき、苗植え、世話、調理などをしようとしている。	⑤調べたことをもとに、世話をし、収穫することができる。	⑤育てている野菜の世話のしかたや成長に気付いている。	

※ 花・野菜混合した栽培の場合

育てる植物によって、成長のようすや世話のしかた、収穫のしかた・時期などが異なってくるため、児童のかかわり方や気付きにも差が出てくることが予想される。これらを前提に評価・支援をしていかなければならない。例えば、アサガオとミニトマトを栽培した児童がいたとして、アサガオは植え替える必要はないが、ミニトマトは植え替えることが多い。また、ミニトマトの場合、収穫したものを食する。しかし、種を収穫し、種などを使って作品を作ることは難しい。このように、混合した栽培の場合、活動が異なり複雑にはなるが、大きな意味で「種まき・発芽・成長・開花・結実」は変わらないので、児童の評価・支援は並行していけると考えられる。

あそびばへ いこう

教科書上P.28~33
7時間/6月

単元の目標

安全に気をつけて、遊び場や野原へ出かけて行き、みんなで遊びながら人や自然とふれあうことができる。

単元の評価規準

●生活への関心・意欲・態度

遊び場や野原へ出かけて行き、友達と仲よく遊んだり、探検したりする。

●活動や体験についての思考・表現

友達と工夫しながら遊具遊びやゲーム・草花遊び・虫探しその他をして、楽しかったことなどを絵や文にかいて表現することができる。

●身近な環境や自分についての気付き

遊び場は多くの人々が利用していて、いろいろな施設があり、みんなのものであるということに気付いている。

小単元の目標	活動の概要	主な準備
<p>なにを して あそぼうかな (7時間)</p> <p>安全に気をつけて、遊び場や野原へ出かけて行き、みんなで遊びながら、人や自然とふれあうことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">教科書 P.26~27の「あぶないよ」を見て話し合い、散歩の振り返りをする。身近な遊び場を紹介し合い、いつも、どんな遊びをしているか話し合う。遊び場に行く計画を話し合い、準備をして出かける。遊び場で楽しく遊んだり、探検したりする。楽しかったことや発見したことを、思い思いに発表し合う。もう一度、遊び場へ行く計画を立てる。(同じ場所でも異なる場所でもよい。)グループをつくって、遊び場で楽しく遊ぶ。学校へ帰ってから、楽しかったことや発見したことをカードや体で表現する。	野外活動のための許可や届け出、保護者への協力依頼、活動場所の下見、児童名簿、小銭、テレホンカード・携帯電話、カメラ・ビデオ、昆虫採集用具、図鑑、記録カード

野外活動における注意事項

準備段階

- 携行品の準備…救急用品、携帯電話など、通信手段は特に重要。
- 下見…下見では、大雨の後などにどうなるかなど、活動当日までの間も気を配っておく。混雑を想定した所要時間、トイレ、水道、危険箇所（かけ、水場、工事現場など）・危険生物（ハチの巣、毒のある生物）も確認する。
- 緊急時の対応、連絡方法の確認…子どもがけがをした場合などの対応方法を確認しておく。
- 活動場所の使用許可…公園管理者や地主に使用許可をとる。
- 協力体制の確保、打ち合わせ…保護者、教師、地域の人などに協力を依頼し、綿密な打ち合わせをする。

事前指導

- 活動範囲の限定…教師の目の届く範囲で活動するように徹底する。
- 2人以上の活動を奨励。
- 自然保護…採集は最小限にし、現状復帰を心がける。
- 活動当日の服装を連絡…活動場所と気候に応じた服装を準備する。
- 持ち物の確認…活動の目的に応じて準備する。

計画上の留意点

○弾力的な活動計画を

本単元での野外活動は、2回を想定している。しかし、学校・子ども、地域の実態や指導体制などをよく考えて配慮しながら計画を立てるようになたい。さらに、安全で楽しい活動をするためにも、かなら遊び場の事前チェックが大切になってくる。毎年行っている遊び場であっても、本当に安全な場所なのかをよく確かめておくことが大切である。

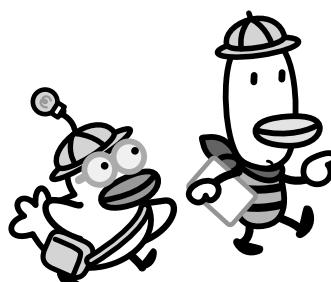
○不審者対応を

遊び場では、様々な人々（障害者、お年寄り、幼児、外国人など）と出会い、そのかかわりを深め広げていくことになるだろう。しかし、知らない人にはついて行かない、1人では行動しないなど、繰り返し指導してから出していくようにしたい。

評価規準		
生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き
①遊び場で出会った人にあいさつをしたり、遊びに来ている子どもたちと遊ぼうとしている。 ②自然のなかで、友達と仲よく遊んだり、探検したりしようとしている。	①遊び場のルールやマナーを守って、利用することができる。 ②自然環境を生かして、遊ぶことができる。	①遊び場を利用すると、自分たちの生活が楽しく豊かになることに気付いている。 ②春から夏の生き物や自然の不思議さに気付いている。

活動当日

- ①全体を見渡す係、個別の子どもへの支援をする係など、教師・協力者の役割分担がきちんと機能するようにする。
- ②水場、がけの近くなど危険箇所に注意する。
- ③不審者、危険な生物に注意する。
- ④子どもの健康状況の確認…特に熱射病、日射病、虫さされ、花粉症、植物によるアレルギーなどに注意する。



なつがきたよ

教科書上P.36~43
5時間/6~7月

単元の目標

夏の季節を生かして、みんなと仲よく遊び、夏の季節の特徴に気付くことができる。

単元の評価規準

●生活への関心・意欲・態度

夏の季節を生かして楽しく遊ぶ。

●活動や体験についての思考・表現

夏らしい遊びを工夫したり、夏休みの計画を立てたりすることができる。

●身近な環境や自分についての気付き

春から夏への季節の変化によって、自然や人々の生活のようすが変わることに気付いている。

小単元の目標	活動の概要	主な準備
<p>あつく なって きたね (4時間)</p> <p>夏の校庭探険などを通して、植物のようすの変化や春とは違った生き物に気付くことができ、夏に適した遊びや、土や砂、水などを使った遊びを考え、友達と楽しく遊ぶことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">1. 夏の校庭を探検する。2. 夏らしい遊びについて話し合う。3. 友達と一緒に楽しく遊ぶ。4. 活動を振り返り、後片付けをする。	春の校庭の定点観測の記録、雨の日の活動用具（なべ、コップ）、虫めがね、昆虫採集セット、シャボン玉作りの用具、図鑑、記録カード、バインダー、カメラ（定点観測ポイントを記録する。）
<p>たのしいな なつやすみ (1時間)</p> <p>夏休みの目当てを、担任や家の人に相談しながら立て、楽しい夏休みを過ごすことができる。また、地域の行事や身近な自然と積極的にかかわるとともに、健康で安全な毎日を過ごすことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">1. 初めて迎える夏休みへの思いを話し合う。2. 夏休みにどんなことをやってみたいか、がんばりたいかを話し合う。3. 家の人と相談して、自分が夏休みにやってみたいことを決め、夏休みの計画表をつくる。	夏休みのしおり・計画表（色画用紙、はさみ、のり、マジック、クレヨンなど）、学校行事予定表、地域行事予定表、夏祭りや夏の行事の資料（写真、ビデオなど）

注意

●日射病や熱射病の症状とその手当て

夏の野外活動において、最も注意しなければならないことの一つに、日射病・熱射病がある。帽子の着用を促し、子どものようすを観察することで予防したい。

〈病状〉

- ①顔面が紅潮して、皮膚が熱くなる。
- ②体温が40℃以上（直腸温）になったり、脈が速くなったりする。
- ③突然倒れて半昏睡状態になることもある。

〈手当て〉

- ①涼しい日陰で風通しのよい場所に寝かせる。
- ②衣類をゆるめて、楽にさせる。
- ③冷水をかけたり、ガーゼにアルコールを浸して体にはったりする。
- ④とにかく早く体温を下げる処置をし、医者を呼ぶ。

計画上の留意点

○地域環境を生かした特色ある活動を

学校の近くに海や山、川などがある場合は、T・Tによる支援など、安全面に十分配慮したうえで、その環境を生かしたダイナミックな活動をさせてみたい。ただし、活動予定の前日までに大雨が降るなど、天候によっては目的地のようすがふだんとまったく変わってしまうこともあるので、実施にあたっては当日も含め十分注意をはらう必要がある。

○知的な気付きを発展させる構えをもつ

教科書P.36～41にある活動は、自然とかかわることが中心になっている。これらの活動には、3年生からの理科につながる自然認識の基礎的事象が多く含まれている。そこで、子どもの知的な気付きを意味深く受け止め、みんなに紹介したりすることで発展させていくという構えをもつようにしたい。

評価規準		
生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き
①夏の季節を生かして、みんなと楽しく遊んでいる。	①友達と協力しながら身の回りの物を利用して遊び道具を作ったり遊びを工夫したりすることができる。 ②水遊びや土・砂遊びにおいて、自分なりに遊びを工夫することができる。 ③夏の遊びで楽しかったことや気付いたことを表現することができる。	①身の回りの自然や生活の場で春から夏への季節の変化に気付いている。 ②春と比べて夏の生き物のようすの違いに気付いている。 ③土や砂の特性に気付いている。
②初めての夏休みの過ごし方を計画し、地域の行事や様々な場所に親しみをもってかかわろうとしている。	④安全に生活することを考えて自分に合った計画を立て、それを表現することができる。	④家族と過ごしたり、地域の人々や様々な場所とかかわったりして生活すると楽しいことに気付いている。

●光化学スモッグによる症状とその手当て

夏期の無風で快晴の日には、光化学スモッグが発生しやすい。光化学スモッグは、空気中の窒素酸化物と炭化水素が太陽の紫外線によって光化学反応を起こし、強酸化性のオキシダントが生成される時の現象である。光化学スモッグの物質は粘膜刺激症状で呼吸困難に陥るなどの障害を与えるため、注意する。各県各地で、「光化学スモッグ警報発令基準」によって通報があるので、マスクミその他の情報に留意する必要がある。

〈症状〉

- ①目がしみて痛み、涙が出る。 ②のどが痛く、せき、息切れを起こす。
③呼吸困難や頭痛、めまいを起こす。

〈手当て〉

- ①うがいや洗眼をする。 ②日陰の涼所で安静にして休養する。
③呼吸困難やけいれんを起こしている時は、病院に運ぶ。

げんきに そだて

教科書上P.50~55
4時間/9~10月

単元の目標

生き物とふれあったり、世話をしたりする活動を通して、生き物への関心と愛着を深め、それらの成長や命の尊さ・温かさに気付くとともに、その感動や気付きを表現することができる。

単元の評価規準

●生活への関心・意欲・態度

身近な生き物とふれあったり、大切に育てたりしようとする。

●活動や体験についての思考・表現

生き物とふれあって楽しかったことや気付いたことを、身体や絵などで表現することができる。

●身近な環境や自分についての気付き

世話や表現活動を通して、生き物のようすや特徴に気付いている。

小単元の目標	活動の概要	主な準備
<p>おせわして あげるよ (2時間)</p> <p>生き物にふれたり、世話をしたりする活動を通して、生き物の習性、世話をする喜び、生命の躍動などに気付くことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">学校や公園など、近くにいる生き物のようすや種類について話し合う。生き物を観察し、ふれたり、世話をしたりする。気付いたことや感じたことを話し合う。	生き物に対する子どものアレルギー調査、飼育に関する本や資料、飼育小屋の清掃に必要な道具、飼育委員会への取材と協力の依頼、獣医師への協力依頼（可能なら）、虫めがねや聴診器など観察が深められる道具、カメラ・ビデオ、記録カード、えさ（家庭や給食室に協力を依頼する。）
<p>だいじな ともだちだよ (2時間)</p> <p>身近な生き物とのふれあいを通して、気付いたことや感じたことなどを、様々な方法で表現することができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">生き物とのふれあいや世話を通して気付いたことや感じたことを思い出す。見つけたことをカードや絵などにまとめる。まとめたことを発表する。	画用紙、色画用紙、粘土、はさみ、のり、マジック、クレヨン、視聴覚機器（記録したビデオや写真を紹介する。）

計画上の留意点

○学校や周辺地域における飼育状況の把握を

生き物に関する具体的な活動や学習を展開する前に、それぞれの学校でどんな生き物が、どこに、どれだけ飼われているか、また、通常の世話はどんな時間にだれがしているかを把握しておくようにしたい。また、学校内に限らず身近な環境に公園やふれあい動物園などがある場合は、こうした場所を使って生き物への愛着や愛情を深めることも可能である。

○衛生面での指導の徹底と個人差への対応

鳥インフルエンザをはじめ、動物を媒体として感染し、発症する病気もあることを念頭におき、手洗い、うがいなどの衛生面での配慮は十分すぎるくらい徹底した方がよい。また、動物を怖がる子やアトピー性皮膚炎、喘息など、生き物との接触に関しては個人による反応の差が大きいので、保護者への連絡と情報交換を密に行なうことが大切である。

評価規準		
生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き
①身近な生き物の特徴や変化を見つけようとしたり、楽しみながら世話をしたりしようとしている。	①どんな世話をしたらよいかを考えたり、活動を通して気付いたことを友達に伝えたりすることができる。	①習性や成長のようす、世話の仕方を理解し、生き物とふれあうことの楽しさに気付いている。
②自分が気付いたことや感じたことを他の友達に伝えようとしている。	②生き物とかかわる喜びや発見を絵や文章、動作化などによって表現できる。	②生き物の特徴や成長・変化のようすに気付いている。



だいすきだよ

教科書上P.56～65
8時間/10月

単元の目標

家庭生活は、家族の仕事や温かさによって支えられていることに気付き、家族の一員として自分にできることを考え、進んで自分の役割を果たすとともに、規則正しい生活を送ることができる。

単元の評価規準

●生活への関心・意欲・態度

家庭での生活や家族のことについて、興味・関心をもって取り組み、自分にできる役割を行い、規則正しく健康に気をつけて生活する。

●活動や体験についての思考・表現

家族のことや自分でできることを考え、家庭や家族のことについて調べたことや体験したことをまとめたり表現したりできる。

●身近な環境や自分についての気付き

家庭生活は、家族の温かさや家族の仕事によって支えられていることに気付いている。

小単元の目標	活動の概要	主な準備
<p>いえて こんな ことを したよ (2時間)</p> <p>家族と一緒にしたことや手伝いなどについて思い出し、その時のようすを自分なりの表現方法でまとめたりしながら、家族と一緒に過ごす楽しさに気付くことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">夏休みに家庭でした手伝いや、ふだんしている仕事、家族と一緒に楽しく過ごしたことを思い出す。カードにかいだことを教え合う。家族のようすを見て、自分にもできる家庭の仕事や、自分でやってみたい仕事を調べる計画を立てる。	夏休みの生活の記録、家庭への協力依頼、記入カード、家庭のようすを紹介するための視聴覚機器（ビデオ、実物投影機、プロジェクターなど）
<p>しごとめいじんに なれるかな (3時間)</p> <p>家庭で自分ができることを見つけ、友達と紹介し合って進んで練習し、してみたい仕事を見つけたり、友達のよいところに気付いたりすることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">家で見つけた仕事を紹介し合い、学校で練習をするための計画を立てる。仕事を紹介し、それぞれの仕事を練習し合う。友達と仕事を紹介し合う。	家庭への協力依頼、仕事紹介コーナーの名札、仕事のようすを紹介するための視聴覚機器、仕事紹介に使うもの（上履き、ハンカチなど）
<p>いえでも チャレンジ!! (3時間)</p> <p>自分の家庭生活を振り返り、友達に教えてもらった仕事に、家族のために進んで取り組むことができる。また、自分でできることについて考え、自分のことは自分で行うことができる。</p> <p>家族で楽しくふれあう機会を多くもち、一緒に過ごす楽しさや、家族みんなのよさに気付き、互いに支え合っていることがわかる。</p>	<ol style="list-style-type: none">学校で練習した仕事や、ほかにもできることを自分で見つけて、やってみる。（各家庭での活動）継続して、家の仕事や決めた活動を行い、実践内容を記録する。家で仕事をした感想を発表し合う。家族と一緒にしたことや、してもらつてうれしかったことなどを出し合い、家族に喜んでもらえることを見つける。家族と、もっとふれあったり、喜んでもらえることを実践したりする。教科書P.64～65を参考に、これからも続けていくことを考える。	家庭への協力依頼、がんばりカード、保護者からの手紙、家庭での仕事のようすを紹介するための視聴覚機器、お手伝い計画表（画用紙、マジックなど）

計画上の留意点

○本単元の年間計画上の位置づけ

家庭での活動が重要になってくるこの単元では、長期の休みを活用し、継続した取り組みになるようになるとよい。

○家庭へ十分な説明と協力の依頼を

児童が自分の活動を継続でき、家庭のなかで家族や家庭のよさを自覚できるように、単元のねらいや学習内容、教師の願いなどを学級通信や懇談会などで呼びかけていきたい。

○それぞれの家庭の独自性を認め合う

家庭はそれぞれの構成員や習慣などにおいて独自性がある。どの家庭でも家族の温かさや家族の仕事によって支えられていることを気付かせるように支援し、プライバシーを侵さないように十分配慮した活動を計画したい。また、違いを認め合えるよう支援を心がけたい。

評価規準		
生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き
	<p>①家族がしている仕事を見つけ、みんなに紹介することができる。 ②家族と一緒にした仕事や遊び、手伝いなどを思い起こして絵や文書に表現することができる。</p>	<p>①家庭ではいろいろな仕事やふれあいがあることに気付いている。</p>
<p>①家庭でしている仕事や手伝いを発表し合い、自分もやってみたいと思っている。</p>	<p>③家でしている自分の仕事を、友達にわかりやすい方法で伝えることができる。</p>	<p>②家庭において自分ができる手伝いがあることに気付き、家族の気持ちがわかる。</p>
<p>②自分でできることをさがし、家でやってみようと心がけたり、実際に実行したりしている。 ③自分のことは自分で行き、さらに、家族に喜んでもらえることを見つけようとしている。 ④これからも継続的に続けられる仕事や手伝いを見つけ、実践しようとしている。</p>	<p>④家で自分のしたことを記録し、伝えることができる。 ⑤家族とのふれあいを工夫し、楽しい団らんの場や家庭で行いたいことを表現することができる。</p>	<p>③自分が家のことで手伝ったり仕事をしたりすることが、明るく楽しい時間を家族でもきっかけになることに気付いている。 ④意欲的に仕事に取り組む自分を見て、自分の成長に気付いている。</p>

あきになつたね きもちがいいね

教科書上P.66~83
17時間/10~12月

単元の目標

遊び場や野原などで散歩したり遊んだりするなかで、季節が秋に変化してきたことに気付くとともに、木の葉や木の実などの自然物を使ってみんなで楽しく遊ぶことができる。

単元の評価規準

●生活への関心・意欲・態度

自分から進んで自然の物を使った遊びを行ったり、遊び道具や生活に役立つ物を作ったりする。

●活動や体験についての思考・表現

自然物を使って、自分たちの生活を工夫したり、楽しんだりすることができる。

●身近な環境や自分についての気付き

自然のなかでの遊びを通して季節の変化を感じるとともに、それにともない自分たちの暮らしも変化してきていることに気付いている。

小単元の目標	活動の概要	主な準備
なにをしてあそぼうかな（7時間） 公園や野原などの遊び場のようすを春と比べ、季節が秋に変化したことを感じとることができる。 秋の公園や野原などの遊び場へ出かけ、そこで自然物を使った遊びを工夫しながら行うことができる。	1. 身の回りで感じられる季節の変化について、気付いたことを発表し合う。 2. 春に行った遊び場へ出かける計画を立てる。 3. 遊び場へ出かける。 4. 遊んだことや見つけたことを発見カードに書き、発表する。 5. もう一度出かけるための相談をし、目当てをもつ。 6. 話し合った目当てをもって、再び出かける。	春の野外活動の記録、野外活動のための許可や届け出、保護者への協力依頼、活動場所の下見、児童名簿、小銭、テレホンカード・携帯電話、カメラ・ビデオ、昆虫採集用具、図鑑、記録カード
あそぼう かざろう（6時間） 自然物を利用して作った遊び道具などを使って、遊んだり表現したり、自分たちの生活に役立つ物を飾ったりして秋を楽しむことができる。	1. 集めてきた落ち葉や木の実で、どんな物ができるか考える。 2. 作ってみる。 3. 作った物を教室に飾ったり、遊んだりする。	落ち葉や木の実、作品作りの材料や道具（のこぎり、はさみ、ペンチ、接着剤、画用紙、模造紙、色紙など）、カメラ・ビデオ、春～夏の校庭の定点観測の記録
さあ、あつまれ あきフェスタ！（2時間） 今までの作品を使って、協力しながら秋フェスタを楽しむことができる。	1. みんなと協力して、秋フェスタの準備をする。 2. それまでに作った作品を使って、秋フェスタをする。 3. 活動を振り返り、後片付けをする。	フェスタの会場、作品、装飾品、活動を紹介する視聴覚機器、ゲストへの招待状、掲示板、後片付けのためのごみ袋
やってみよう！あきを さがそう！（時間はゆとりから） ゲームを通して楽しみながら秋を見つけ、気付きを友達と共有することができる。	1. 秋見つけゲームの相談をする。 2. 秋見つけゲームを作る。 3. 友達と交換しながら、ゲームを行う。	秋見つけゲームのためのカード、図鑑、野外活動のための準備一式（校外へ出る場合）
たのしみだね ふゆやすみ（1時間） 冬休みの過ごし方について話し合い、冬休みの目当てを考え、楽しく休みを過ごすことができる。	1. 冬休みへの思いを話し合う。 2. 冬休みの目当てについて話し合う。 3. 冬休みの目当てや、やってみたいことを家人とも相談して決め、「冬休みのしおり」にかく。	夏休みの記録、冬休みのしおり・計画表（色画用紙、はさみ、のり、マジック、クレヨンなど）、学校行事予定表、地域行事予定表
もうすぐお正月（1時間） ルールなどを工夫してすごろくで遊ぶことができる。	1. 教科書P.82～83のすごろくを見て、遊び方について話し合う。 2. すごろくの空いているところを自分で考えて記入し、完成させ友達と楽しく遊ぶ。	P.82～83のすごろくを拡大コピーしたもの、さいころ、こま、独自のルールを作るなかで必要なもの

計画上の留意点

○他教科との関連をはかり、生き生きと表現活動を

国語、音楽、図工などとの関連をはかり、製作時間があまり多くならないように気をつけたい。作った楽器などで遊ぶ時は、音楽でのリズム遊びの学習などと関連づけ、表現活動につなげてもよい。

○展示方法の工夫

作ったものを飾ったり、遊んだりする活動を発展させる工夫として、オープンスペースや空き教室などを活用して、子どもたちが常時遊んだり活動したりできるコーナーを設けることもできる。

○秋フェスタは、時数をおさえて

イベント的に扱わないように気をつけたい。前時までの活動をそのまま生かしたり、少しつけ足したりして、秋フェスタにもっていきたい。指導時数が増え過ぎないように、計画立案することが大切である。

評価規準		
生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き
①公園や野原などの遊び場へ行き、秋のようすを探そうとしている。 ②遊び場で、木の葉や実で遊び、秋を楽しんでいる。	①遊び場で、いろいろな遊びを友達とつくり出すことができる。 ②季節が秋に変わったことを表現することができる。 ③木の葉や実、枝などの形状を生かし、造形活動をすることができる。	①草木や生き物などから、季節が秋に変化していることに気付いている。 ②遊び場や野原が、みんなのものであることに気付いている。 ③作ったり遊んだりしながら、自然物の不思議さやおもしろさに気付いている。
③木の実や落ち葉を使って、遊んだり作品を作ったりしようとしている。	④自然物の形や色合いを生かして教室を飾ったり、遊んだりすることができます。	④遊び方やルールなどを工夫すると楽しく遊べることに気付いている。
④みんなで協力して、秋フェスタを楽しもうとしている。	⑤秋フェスタの場で、自分の思いを伝えることができる。	⑤秋フェスタを振り返り、よかったですや、こうすればもっとよくなるというところに気付いている。
⑤秋見つけやゲーム作りに意欲的に取り組もうとしている。	⑥相手意識をもって、ゲームを工夫して作ることができます。	⑥ゲームを通して秋らしさを感じ取り、季節の変化に気付いている。
⑥冬休みの楽しみ方について考え、自分のできることや過ごし方などを計画し、みんなに知らせようとしている。	⑦友達や家族との話し合いの後で、自分のしてみたいことを考え、「冬休みのしおり」に表現することができる。	⑦夏休みとの生活や環境の違いに気付いている。
⑦お正月にする遊びに関心をもち、ルールを決めて友達と遊ぼうとする。	⑧教科書P.82～83の「すごろく遊びの空欄に、冬休みにすることなどを考えて記入し、ルールの工夫ができる。	⑧友達のすごろくで遊び、その楽しさや、自分の冬休みの過ごし方との違いに気付いている。

わくわく ふゆが やってきた

教科書上P.84~91
9時間/1~2月

単元の目標

冬の外遊びに目を向け、季節の変化を感じとることができるとともに、昔からの遊びを地域の人から教わり、楽しく元気に遊んだり、交流したりできる。

単元の評価規準

●生活への関心・意欲・態度

いろいろな遊びに関心をもち、冬を楽しく元気に過ごそうとしている。

●活動や体験についての思考・表現

冬らしい遊びを工夫し、みんなで楽しむとともに、それを表現できる。

●身近な環境や自分についての気付き

冬の自然や人々の生活のようすがわかったり、みんなで遊ぶと楽しいことに気付いたりしている。

小単元の目標	活動の概要	主な準備
<p>きたかぜと ともだち (4時間)</p> <p>冬の外遊びに目を向け、工夫しながら寒さに負けず元気に楽しく遊ぶことができ、春・夏・秋のようすと比べながら、季節の変化を感じ取ることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">校庭で冬の自然とかかわり、冬らしさを見つける。校庭で、みんなと一緒に元気よく遊ぶ。学校の周りや身近な遊び場・公園などで冬の遊びを楽しんだり、冬の自然を見つけたりする。	春～秋の校庭の定点観測の記録やカード、カメラ（定点観測ポイントを記録する。）、戸外遊びの道具（なわ、たこ、ボールなど）、記録カード、図鑑
<p>むかしからの あそびを しょう (5時間)</p> <p>身近な地域のお年寄りなどに、昔からの遊びのこつを教わったり見せてもらったりしながら、楽しく遊んだり交流したりできる。</p>	<ol style="list-style-type: none">地域の高齢者などを招いて、自分たちの知らない遊びや遊び方のこつを教えてもらい、楽しく遊ぶ。練習して、じょうずになった昔遊びを発表し合ったり、地域の人に見てもらったりする。	昔遊び用のおもちゃ（こま、たこ、けん玉、お手玉、まり、竹とんぼなど）、ゲストへの招待状・協力依頼、記録カード
<p>やってみよう！ いっしょに あそぼうよ!! (時間はゆとりから)</p> <p>外国人との交流のなかで、外国にも日本と同じようにその国特有の遊びや暮らしがあることを知り、一緒に楽しく遊ぶことができる。</p>	<p>〈地域に外国人人がいる場合〉 地域の外国人や外国で長い間暮らしていた人などに、その国特有の遊びや暮らしについて聞き、教わった遊びと一緒に楽しむ。</p> <p>〈地域に外国人人がいない場合〉 教科書P.90～91を見て、みんなで外国の遊びを楽しむ。</p>	協力依頼・招待状、外国のおもちゃ、民族衣装、外国を紹介した本やインターネットの資料など、活動のための多目的室・体育館・生活科室の準備

計画上の留意点

○高齢者や外国人の人々など多様な人々との交流

本単元では、多様な人々とふれあう活動を様々な場面で紹介している。生活科の大切なねらいである「身近な人々とかかわり、相手を大切にし、思いやる気持ちをもち、ともに生きていく」という考え方を育むのに最適な単元であるといえる。昔遊びのこつを高齢者から、また、地域に住む外国人の人から日本にある遊びとよく似た遊びがあることを教わるなど、入学以来培ってきた人とかかわる力を、ここで存分に発揮できるようにしたい。

○冬の戸外遊びに適したおもちゃ作りを楽しむ

昔からの遊びを教わって興味や関心をもった子どもたちが、おもちゃ（けん玉・こま・たこ・竹とんぼなど）作りにチャレンジする活動も、発展として考えられる。これらのおもちゃは冬の季節にふさわしく、体を動かして楽しめるものである。図工との関連をはかり、教科書の上P.116～119「わくわくおもちゃランド」を活用して積極的に展開していきたい。

評価規準		
生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き
①冬の自然を利用した遊びを楽しんでいる。 ②戸外で、体を動かし元気よく遊んでいる。	①校庭や公園など身近な環境の季節の変化を五感を働かせて感じ取り、表現することができる。 ②体が温まる集団遊びを工夫したり、考えたりすることができる。	①季節の変化や、季節にふさわしい遊びがあることに気付いている。
③伝承遊びに興味をもち、楽しく遊んでいる。	③友達、上級生、名人、高齢者など様々な人に遊び方と遊びのこつを教えてもらい、うまくできるよう遊ぶことができる。 ④自分が上達した方法を、友達に自分なりの方法で伝えることができる。	②昔から伝わる遊びがあることを知り、うまく遊べるようになった自分に気付いている。
④外国にも自国とよく似た遊びがあることに興味をもち、楽しんで遊んでいる。	⑤外国人の人と親しく遊んだり、遊び方やルールを知って楽しく遊べるように工夫することができる。	③外国にも自国の遊びに似た楽しい遊びがいろいろあることに気付いている。

たのしかったね 1 ねんかん

教科書上P.92~98
11時間/2~3月

単元の目標

この1年間に様々な思い出ができたことや、自分や友達とともに成長したことに気付き、進級する喜びや希望をもつことができる。

単元の評価規準

●生活への関心・意欲・態度

1年間の生活を振り返り、進級する喜びをもつ。

●活動や体験についての思考・表現

1年間の記録や作品をまとめることができる。

●身近な環境や自分についての気付き

自分や友達とともに成長してきたことに気付いている。

小単元の目標	活動の概要	主な準備
<p>おもいでが いっぱい できたよ (5時間)</p> <p>入学してからの1年間の活動やでき事・行事などを振り返り、楽しい思い出がたくさんできたことや、自分も友達も成長したことに気付くことができる。</p> <p>2年生に進級することを喜び、友達と協力してお祝いの会を開くことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">1. 生活科での活動や学校の行事などの記録をもとに、楽しかったでき事や思い出を振り返る。2. 思い出の手がかりとなるものを集めたり見せ合ったりして、楽しかったこと、印象に残っているでき事などをみんなで話し合う。3. 楽しかったことやできるようになったことなどをカードにかいたり、思い出の木や思い出袋などを作ってまとめたりして整理する。4. 思い出の会や進級のお祝いの会の準備や練習をする。5. 思い出の会や進級のお祝いの会を開く。	1年間の活動を振り返るもの（作品、カード、写真、ビデオなど）、思い出の作品を作るための材料・用具（画用紙、色画用紙、折り紙、マジック、クレヨン、リボン、製本用テープなど）
<p>あたらしい 1ねんせいが くるよ (4時間)</p> <p>新1年生に喜んでもらえるように、教室をきれいに掃除したり、飾ったり、メッセージをかいたりして、温かく1年生を迎えることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">1. 1年生にどんなことをしたら喜んでもらえるかを話し合う。2. 1年生に伝えたいメッセージを短冊やプレゼントカードなどにかく。3. 教室を心を込めてきれいにそうじし、メッセージや飾り付けをして歓迎の準備をする。	入学式のビデオ・写真、教室大掃除のための道具、教室を飾る材料、新1年生へのメッセージ作りの材料（カード、画用紙、マジックなど）
<p>あたらしい 1ねんせいが くるよ (さあ、2ねんせいだ！) (2時間)</p> <p>校庭や学校の周りで、秋や冬と比べて自然が変化しているようすを探し、春が近づいていることに気付くことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">1. 通学路で見つけた春の自然や季節の変化を発表する。2. 校庭や学校の周りへ出かけて春見つけをする。3. それぞれに、自分が感じた春のようすや、他の季節との違いを交流し合う。	図鑑、虫めがね、ビニル袋、記録カード

計画上の留意点

○他教科や行事などとの関連を

1年間の学習の総まとめとして、児童の製作物や行事の記録写真なども保存しておいて利用する。時間配分も、他教科との合科や行事との関連などで、弾力性をもたせていくとよい。

なお、作品のまとめや交流、取材などの活動は、家庭学習や休み時間などをを利用して他学級や他学年児童、保護者などに協力をあおぐことも考えられる。

○多面的に成長をとらえる

発表や交流の場面では、表現の技能や他の作品との比較ではなく、自分自身の成長に目を向け、自信がもてるよう導いていきたい。

また、家族や担任以外の教師など、一人ひとりの成長を見守ってくれていた第三者の支援が得られるようにしておくことが大切である。

評価規準		
生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き
①入学してからの1年間を振り返り、楽しんで思い出を話し合ったり、作品を整理したりしようとしている。 ②2年生に進級する喜びと意欲をもって、思い出の会を開こうとしている。	①思い出や作品をまとめたり、できるようになったこと・得意なことを表現したりできる。	①互いの作品を見せ合ったり、発表を見たりすることで、自分や友達の成長やよさに気付いている。 ②思い出の会を開き、1年間にあった思い出やそれらを通して成長したことに気付いている。
③どんな準備をすれば、新1年生が喜んでくれるかを意欲的に話し合おうとしている。 ④2年生に進級する喜びをもって、新1年生を温かく迎える準備をしている。	②2年生になるという抱負をもってメッセージをかくことができる。 ③思い出や、得意なこと・できるようになったことなどのなかから、1年生にしてあげたいこと・喜んでもらえるようなことを、工夫して表現することができる。	③自分たちにも1年生にしてあげられることがあることに気付いている。 ④進級の喜びや抱負・互いの成長を自覚している。
⑤身近な自然のようすの変化に目を向け、五感を使って春を感じ取ろうとしている。	④見つけたり、感じたり、味わったりした春を、友達に知らせたり、発表し合ったりできる。	⑤季節の変化に気付いている。

ともだち いっぱい なかよく しようね

教科書下P.2~3
4時間/4月

単元の目標

成長したことを自覚しながら、新1年生にかかわることができる。

単元の評価規準

●生活への関心・意欲・態度

新1年生の立場に立って、1年生の世話をしようとしている。

●活動や体験についての思考・表現

学校のようすを1年生にわかるように伝えることができる。

●身近な環境や自分についての気付き

上級生になったことを自覚して、1年生に接するなかで、自分の成長に気付いている。

小単元の目標	活動の概要	主な準備
<p>ともだち いっぱい なかよく しようね（4時間）</p> <p>進級を喜び、新たな抱負を話し合ったり、新しく入ってきた1年生に喜んでもらえることを、計画したり準備したりできる。</p>	<ol style="list-style-type: none">1. 進級の喜びや抱負を話し合う。2. 1年生が喜んでくれることを考える。<ul style="list-style-type: none">・学校案内・プレゼント・一緒に遊ぶ3. 1年生が喜んでくれることの計画を立てたり、準備をしたりする。<ul style="list-style-type: none">・学校案内の方法やコース・プレゼント作りや渡し方法・遊びの種類やルール4. 1年生に招待状を渡したり、誘いに行ったりする。5. 学校案内や、一緒に遊ぶ会を開く。<ul style="list-style-type: none">・グループ分け・自己紹介や1年生への説明・プログラムづくりや役割分担6. 感想を出し合い、これからもやってみたいことを話し合う。（合同のままで、または、1・2年生別々に）<ul style="list-style-type: none">・2年生として 計画と実際にやってみての感想 上級生としての心構え・1年生として うれしかったこと またしてほしいこと	<p>1年生の時に作っておいた花の種のプレゼントや手紙、1年生へのプレゼントを作る材料（画用紙、色画用紙、リボン、テープ、マジック、クレヨンなど）、学校を案内するための旗やワッペン、体育館・多目的室などの準備（1・2年生合同で遊ぶ場所）</p>

計画上の留意点

○異学年交流の意義

1・2年生合同単元は、多様な人々との交流学習のスタートになる。2年生にとっては進級への喜びと自覚が高まり、1年生にとっては学校への親しみと、来年は自分たちも……という意欲につながる。

○2年生らしい学校探検

2年生が1年生に学校を案内することで、2年生は、もう1度学校を見直すとともに新鮮な発見ができる。1年前には気付かなかった人や場所、さらにかかわりの深まった対象に気付いたり、新しい友達や転勤してきた先生との出会いがあつたりするかもしれない。また、この活動を次の町探検へのステップとしたい。

○学校案内までの弾力的な時間設定

2年生がコースを設定したり説明を工夫したりするためには、自分たちで相談したり試してみたりする時間の設定が必要になる。

評価規準		
生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き
<p>①進級の喜びをもって、2年生になった抱負を発表しようとしている。 ②新1年生のために何ができるかを、自分から進んで考えたり、計画したりしようとしている。 ③新1年生の立場に立って、1年生の世話をしたり学校案内をしたりしようとしている。</p>	<p>①2年生に進級した抱負が発表できる。 ②学校案内や1年生の世話など、自分たちにできることを計画したり、準備したりできる。 ③自分が1年間学んできた学校のようすを1年生にわかるように伝えることができる。</p>	<p>①上級生になったことを自覚し、1年生に接することを通して、自分の成長に気付いている。</p>

レッツゴー！町たんけん

教科書下P.4~21、32~37
16時間/4~7月

単元の目標

自分たちが住む町を探検し、町の自然、人々、社会、公共物などに关心をもつとともに、町や地域のよさを発見し、愛着をもつことができる。

単元の評価規準

●生活への関心・意欲・態度

自分の生活している町に関心をもち、地域の人々や様々な場所に親しみをもってかかわったり、友達と協力して春の町を探検したりしようとしている。

●活動や体験についての思考・表現

地域の人々や様々な場所と適切にかかわることや、安全に生活することについて考えたり、町探検で発見したことや気付いたことについて、自分らしい方法で表現したりすることができる。

●身近な環境や自分についての気付き

町の春の自然や人々、社会、公共施設などのようすや、自分たちの生活とのかかわりに気付くとともに、自分の町のよさに気付いている。

小単元の目標	活動の概要	主な準備
さあ、さくせんかいぎだ！ (2時間) 自分が知っている町のことを紹介し、グループごとに町探検の計画を立て、必要なものを準備することができる。	1. 登下校時や休日などに、町で見つけたおすすめのものを紹介する。 2. みんなでいっしょに行ってみたい所を話し合う。 3. 町探検のグループで、持っていくものを準備したり、約束事を決めたりする。	町のなかで見つけた実物や写真（探検意欲を高めるもの）、生活科マップ（簡単な学区地図）、探検計画カード、色鉛筆、フェルトペン
町を たんけんしよう (6時間) グループの探検計画にそって町に出かけ、発見したり人々と接する喜びを味わったりしながら、協力して町探検をすることができる。	1. 持ち物や約束事を確認し、グループごとに探検に出かける。 2. 学校に帰り、発見カードをかいたり、情報交換をしたりする。 3. もう一度探検する所を決め、探検に出かける。	探検先への許可申請、下見、保護者への協力依頼、児童名簿、救急用品、携帯電話、笛、探検計画カード、探検メモ、バインダー、探検バッグ、グループで準備した探検グッズ（名刺など）、記録道具（カメラ、ビデオ、ポイスレコーダーなど）
はっけんした こと、おしらせします！ (3時間) 町探検で調べたことや気付いたことを話し合い、探検カードにかけて絵地図にはったり、そのほか様々な表現方法で伝え合ったりすることができる。	1. 探検カードをかき足したりして整理したり、発見したことや調べたことをまとめたりする。 2. 整理した探検カードをもとに、探検したことを発表するための準備をする。 3. 探検したことを発表し合う。	絵地図、探検カード、発表のための視聴覚機器（OHP、ディスプレー、実物投影機、デジタルカメラ、ビデオカメラ）、発表のための材料（模造紙、マジック、クレヨン、色鉛筆、画用紙、色紙など）
おれいの 気もちを とどけよう (1時間) 町探検でお世話になった人々へ、手紙をかくなど、自分なりに工夫してお礼の気持ちを伝えることができる。	1. 探検でお世話になった人々へのお礼のしかたについて考え、話し合う。 2. お礼の手紙や絵などを心を込めてかく。	お礼の気持ちを届けるためのグッズを作成するもの（画用紙、色画用紙、段ボール紙、和紙、のり、便箋、接着剤、セロハンテープ、両面テープ、クレヨン、色鉛筆、マジック、紙テープ、折り紙など）

計画上の留意点

○学校や地域の実態に合わせて弾力的な計画を

本単元では、2回の町探検を想定している。しかし、子どもや学校・地域の実態によっては、1回しか町探検に出られないこともあるだろう。そのような時は無理をしないで、1回の探検にたっぷりと時間をかけたり、発表会で子どもたちの思いや願いがかなうような支援をしたりして、計画に弾力性をもたせていくとよい。なお、可能な限り、他の季節にも同じ所へ繰り返し出かけ、四季の変化を感じさせたい。

○地域の自然、人々、社会のようす、公共物などと直接ふれあう

町探検で出会った人々とのかかわりを深めておく。特に、農家の人はや公共施設で働く人などは、他の季節の町探検でも協力してもらえるように配慮しておきたい。身近な公共施設や公共物はいろいろあるので、地域の実態や協力体制も含めて候補を準備しておく。

評価規準		
生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き
①自分が知っている町のことを話したり、探検を楽しみにしたりしている。	①町探検に必要なものを考えて、計画や準備をしたり、探検の約束などを考えたりすることができる。	①町探検に必要なものや約束などの大きさに気付いている。
②自分の町に関心をもち、安全に気をつけ、友達と協力して春の町を探検したり、調べたりしようとしている。 ③公共物や公共施設を、ルールやマナーを守って、大切に利用しようとしている。	②公共物や公共施設の利用のしかたについて考え、安全に利用することができる。 ③場所や物、人々とかかわり、見つけたことや気付いたことなどを絵やカードなどに書き表すことができる。	②町には、公共物や公共施設があり、それを支える人々がいることがわかっている。 ③春の自然や町、人々の生活のように気付いている。
④町探検で見つけたことや気付いたことなどを友達に伝えようとしたり、友達の発表を聞こうとしたりしている。	④町探検で見つけたことや気付いたことなどを絵や文などで自分なりに表現したり、まとめたりすることができる。	④町探検や人々とのかかわりを通して、町のよさに気付いている。 ※「はっけんしたこと、おしゃせします」、「おれいの 気もちを とどけよう」の2小単元を通して評価する。
⑤お世話になった人々に感謝の気持ちをもっている。	⑤お世話になった人々へのお礼の気持ちを伝える方法を考え、表現することができる。	⑤町に障害者や外国の人々のための施設・設備があるということに気付いている。(やさしい町なんだ)

小単元の目標	活動の概要	主な準備
<p>町に 夏が やってきた (3時間)</p> <p>グループの探検計画にそって町に出かけ、発見したり人々と接する喜びを味わったりしながら、協力して町探検をすることができる。町探検で調べたことや気付いたことを話し合い、探検カードにかけて絵地図にはったり、そのほか様々な表現方法で伝え合ったりすることができる。</p>	<p>1. グループごとに出かける。 2. 学校に帰り、探検したことをまとめる。 3. 春との違いを発表し合う。</p>	<p>*春の町探検と同様のものを準備する。また、春と比較するために、春に記録したカードや絵地図も用意しておく。</p>
<p>わくわく夏休み (1時間)</p> <p>夏休みの目当てについて話し合い、健康に気をつけて楽しく実りある生活ができるようにする。また身近な地域の人々や自然とかかわりをもち、意欲的な夏休みを送ることができる。</p>	<p>1. 1年生の時の夏休みの楽しかった思い出などについて話し合う。 2. 夏休みの生活でやってみたいことを決める。 3. 「夏休みのしおり」を作る。</p>	<p>1年生の時の絵日記などの記録、学校行事予定表、地域行事予定表、夏休みのしおり・計画表（色画用紙、はさみ、のり、マジック、クレヨンなど）</p>

町探検について

こんな準備を

●探検コースを下見して、危険な場所がないか確認しておく。前もって許可が必要な場所へ行く場合は、訪問先との打ち合わせをしておく。また、グループ探検をする時に、保護者の協力を要請する場合には、早めに予定を連絡し、保護者との打ち合わせを十分に行う。子どもへの安全指導は、事前に徹底して行う。

●学区の大きな地図と、子どもの机に広げられる程度の簡単な学区の地図があるとよい。

●町探検では、教科書下巻末の「いきいき ずかん」がいろいろな場面で活用できる。町探検の計画段階では、教科書P.82~83の「たんけん めいじんに なろう」、探検中はP.86の「しらべかた」、探検後はP.87の「つたえかた」、P.88~89の「きろくの まとめかた」が参考になる。

町探検と年間計画

●本教科書では、町探検1回を3時間と想定し、春2回、夏1回、秋2回、冬1回の探検ができるよう年間計画を立ててある。しかし、気候や学校や地域の様々な事情に応じて、探検の回数は柔軟に対応したい。特に、商店街を対象とする場合、繁忙期があるので事前に調査と打ち合わせを縦密に行い、無理のかからないようにしたい。

●町探検では、活動内容が栽培活動と関連するところがある。町探検で農家の人の訪ね、栽培活動のきっかけにすることもある。また、地域によって農産物などの特産品がある場合、その生産活動を軸に町探検とからめて年間計画を立てる方法もある。

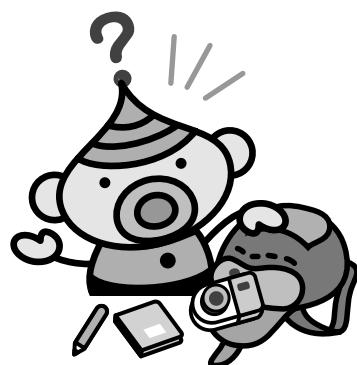
●夏の町探検は、夏休み中に保護者といっしょに行う活動としてもよい。

	評価規準		
	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き
	<p>⑥自分たちの町に関心をもち、安全に気をつけ、友達と協力して夏の町を探検したり調べたりしようとしている。</p> <p>⑦町探検で見つけたことや気付いたことなどを友達に伝えようとしたり、友達の発表を聞こうとしたりしている。</p>	<p>⑥場所や物、人々とかかわり、見つけたことや気付いたことなどを絵やカードにかき表すことができる。</p> <p>⑦町探検で見つけたことや気付いたことなどを絵や文などで自分なりに表現したり、まとめたりすることができる。</p>	<p>⑥夏の自然や町、人々の生活のように気付いている。</p> <p>⑦町探検や人々とのかかわりを通して、町のよさに気付いている。</p>
	<p>⑧去年の夏休みを振り返り、自分が夏休みにやりたいと思うことを、積極的に見つけようとしている。</p>	<p>⑧夏休みにやってみたいことを考えて、「夏休みのしおり」に表現できる。</p>	

町探検と表現活動

●町探検では、学校にあるいろいろな情報機器が使えることを子どもたちに知らせ、状況に応じて活用できるようにする。町探検に出る時には、デジタルカメラ、ビデオカメラ、テープレコーダー、ボイスレコーダーなどが、また、発表会の時には、実物投影機、プロジェクター、OHPなどが活用できる。

●情報機器はあくまで情報を効果的に伝えるための機器であることを忘れず、操作方法の習熟が目的にならないようしたい。デジタルな方法だけでなく、教科書下P.87にあるような、劇や歌など身体を使った表現活動にも挑戦したい。



げんきに そだて

教科書下P.22~31
9時間/5~6月

単元の目標

生き物を探したり、育てたりする経験を通して、生き物への愛着を育み、生き物への適切な接し方やかかわりができるようになるとともに、生き物には生命があり、成長していることに気付くことができる。

単元の評価規準

●生活への関心・意欲・態度

生き物を採集し、適切にふれあったり、大切に育てたりしようとする。

●活動や体験についての思考・表現

飼育する活動のなかで生き物について気付いたことを、自分なりの方法で表現し、工夫して伝えることができる。

●身近な環境や自分についての気付き

生き物には生命があり、自分たちと同じように生きていることに気付いている。

小単元の目標	活動の概要	主な準備
<p>生きものたんけんたい しゅっぱつしんこう!! (1時間)</p> <p>身近な生き物に興味や関心を示し、採集のために必要な計画や準備をすることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">生き物について話し合う。生き物探しの計画を立てる。生き物探しの準備をする（必要に応じて自作の容器を作る）。	生き物に対する子どものアレルギー調査、生き物に関する図鑑やWEBページ、大まかな学区地図、飼育容器を自作する材料（ペットボトル、食品トレーなど）
<p>見つけた！ 見つけた！ (2時間)</p> <p>生き物の住む環境について理解し、かかわったり、採集したりできる。</p>	<ol style="list-style-type: none">生き物探しに出かける。安全に注意しながら生き物採集をする。情報交換をする。	野外活動のための許可・届け出・保護者への協力依頼、救急用品、採集道具（網、入れ物、ザリガニ釣りの道具）、着替え、携帯電話、小銭、カメラ・ビデオ、図鑑
<p>大きく なあれ (2時間)</p> <p>生き物の世話の方法を調べたり、すみかを整えたりすることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">飼育の方法について話し合う。生き物を継続して飼育する。観察する。生き物のようすをまとめめる。	飼育セット（容器、エアポンプ、小石・砂、水草、壊れた植木鉢など）、図鑑、汲み置きの水、えさ、観察カード
<p>生きものランドを つくろうよ (4時間)</p> <p>生き物の飼育を通して気付いたことやそのようすをいろいろな方法で表現することができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">生きものランドの計画を立てる。生きものランドの準備をする。生きものランドを開く。これからのこと話し合う。	飼育セット、図鑑、生きものランドを装飾するもの（画用紙、色画用紙、模造紙）、招待状と打ち合わせ（異学年交流を行ったり、ゲストを招いたりする場合）

計画上の留意点

○まず教師が飼育に関する基礎知識を

せっかく採集してきた生き物を、十分な世話をしないまま飼育ケースや水槽の中で死なせてしまう例は多い。なかには、生き物に強い関心があり、採集や飼育の経験が豊富な子もいるが、すべての子が確かな知識や技術をもっているわけではなく、教師のちょっとしたアドバイスや指導で生き物の命を救うことができる場合も多い。まずは教師が飼育方法やえさの種類、採集方法、採集に適した周辺の情報など、飼育に関する基礎的な知識や技能は身に付けておくことが必要である。

○飼育に関する環境整備

生き物の生息場所は季節によって変化する。したがって、生き物に関する情報収集は、学級内にコーナーなどを設け、長期的展望の中から適した時期や安全への配慮を考えていきたい。

○安全対策を万全に

この単元では、生き物の採集のために野外へ出かけて行く場合も多い。道程や活動場所の危険箇所確認もさることながら、現地に潜む危険な生物への配慮は十分に行いたい。保護者や地域の人にも協力をお願いして、安全に関する不備がないように活動したい（P.14～15参照）。

評価規準		
生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き
①生き物探しに興味をもち、進んで準備している。	①生き物のいそうな場所やそこに生息する生き物について考え、友達と意見を交換することができる。	①身近にいろいろな生き物がいることに気付いている。
②生き物に興味をもち、探したり、採集しようとしている。	②どんな環境にどんな生き物がいるかを考え、採集や観察することができます。	②生き物が生息する環境や効果的な採集の方法に気付いている。
③採集してきた生き物の世話や観察を意欲的に行ってている。	③採集してきた生き物の世話のしかたや生態について調べたり、環境を整えたりすることができる。	③採集してきた生き物の特徴や飼育のしかたに気付いている。 ④生き物も自分たちと同じように生命をもち、成長・変化していることに気付く。
④「生きものランド」の準備や当日の運営に主体的に取り組もうとしている。	④効果的な展示や掲示のしかたを考え、工夫することができる。	⑤友達の発表や展示のよさに気付いている。

遊び大すき あつまれ！

教科書下P.38～47
10時間/9～10月

単元の目標

身の回りにあるいろいろな材料を利用して、工夫しておもちゃを作ったり、作ったおもちゃの遊び方を工夫したりして、みんなで楽しく遊ぶことができる。

単元の評価規準

●生活への関心・意欲・態度

おもちゃ作りに関心をもち、作ったおもちゃで友達と楽しく遊ぼうとしている。

●活動や体験についての思考・表現

自分が描いた設計図をもとにおもちゃを作ることができ、工夫したところや遊び方を説明することができる。

●身近な環境や自分についての気付き

身の回りの材料を利用しておもちゃを作ったり、遊んだりする楽しさに気付くとともに、製作や遊びを通して、友達や自分のよさに気付いている。

小単元の目標	活動の概要	主な準備
<p>つくって あそぼう (5時間)</p> <p>身の回りにある材料を利用して、おもちゃを作り、みんなで楽しく遊ぶことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">集めた材料をもとに、作りたいおもちゃを考え、設計図をかく。おもちゃを作る。作ったおもちゃで友達と遊ぶ。	材料集めのための家庭への連絡、いろいろな材料（家庭から集めておく）、おもちゃを動かすための材料（磁石、ゴム、風船など）、おもちゃを作るための道具（はさみ、千枚通し、カッターナイフ、段ボールカッター、セロハンテープ、粘着テープ、接着剤、のり、マジック）、体育館や多目的室の準備（活動ができる広い場所の確保）、おもちゃを一時保管できる場所、設計図をかくカード、交流活動のための計画・連絡、記録カード
<p>くふうして みよう (5時間)</p> <p>作ったおもちゃを改良したり、遊び方を工夫したりして、みんなで楽しく遊ぶことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">「もっと〇〇〇してみたい」ことを考える。おもちゃを改良したり、遊び方のルールを考えたりして、友達と遊ぶ。改良したおもちゃや工夫した遊び方の発表をする。	虫を採集できる場所（広場や空き地）の事前調査や活動許可、採集用具（網やわな）、飼育容器（水槽、ペットボトル）、昆虫図鑑、飼育図鑑（事前にインターネットで虫に関するホームページを集めてリンク集を作しておくと子どもが検索するのに便利）、記録カード、手作り楽器を作るためのいろいろな廃材、音楽会開催のための異学年や地域との連絡・調整
<p>やってみよう (時間はゆとりから)</p> <p>秋の虫を探したり、飼育したりする活動を通して、虫に親しみ、虫のすみかや体の特徴、鳴き声の違いなどに気付き、そのなかで秋らしさを感じることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">初秋の野原や空き地へ出かけ、秋の虫をつかまえる。虫の飼い方を調べ、虫の世話をすること。虫とかかわるなかで虫の特徴を調べるとともに、虫の音楽会をする。	

計画上の留意点

○「作る一遊ぶ」活動の連續性を大切にした時間の設定を

子どもたちが、作ったおもちゃはその場すぐに遊びたいと願うのは当然である。そこで、計画にあたっては、作る活動と遊ぶ活動を別の日に行うのではなく、作って遊ぶ活動が連続して行えるように時間を設定したい。また、作ったおもちゃで遊んでいる最中におもちゃが壊れ、修理する必要もでてくるであろうから、「作る－遊ぶ－作り直す－遊ぶ」活動が十分保障できるよう時間の設定に留意したい。

○おもちゃでのびのび遊べる場の確保を

おもちゃで遊ぶには、自由に活動できる広い場所が不可欠である。子どもたちが作ったおもちゃを通して互いに交流し、遊び合える十分なスペースを確保するためにも、事前に特別教室などの利用計画に留意したい。また、活動場所が屋外も含め何カ所にもなる場合は、複数の指導者が配置できるような計画と準備が必要になる。

評価規準		
生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き
①必要な材料を集め、楽しく作ろうとしている。 ②作ったおもちゃで友達と楽しく遊んでいる。	①身の回りの材料を活用し、設計図をもとにおもちゃを作ることができる。	①身の回りの材料を使っておもちゃを作ったり、遊んだりする楽しさに気付いている。
③おもちゃを楽しく改良したり、遊び方を工夫したりしている。	②自分のおもちゃの工夫した点や遊び方などを説明することができる。	②自分のおもちゃの改良すべき点や工夫すべき点に気付いている。 ③おもちゃ作りの楽しさや友達のおもちゃのよさ、工夫に気付いている。
④虫にかかわり、世話をしたり、観察をしたりしようとしている。	③虫の飼い方を調べ、どのように世話をしたらよいか考えてかかわり、世話をしながらわかったことを表現することができる。	④虫とかかわる活動を通して、虫の特徴に気付いている。

もっと しりたいな 町の こと

教科書下P.48~55
12時間/10~11月

単元の目標

秋の町を自分なりの目的をもって探検し、町の自然、人々、社会、公共施設などに親しみをもってかかり、調べたり、体験したり、教えてもらったりすることを通して、町のよさに気付くとともに、町に愛着をもつことができる。

単元の評価規準

●生活への関心・意欲・態度

自分が生活している町に関心をもち、地域の人々や様々な場所に親しみをもってかかわったり、友達と協力して秋の町を探検したりしようとしている。

●活動や体験についての思考・表現

地域の人々や様々な場所と適切にかかわることや、安全に生活することについて考えたり、町探検で発見したことや気付いたこと、教えてもらったことや体験したことについて、自分らしい方法で表現することができる。

●身近な環境や自分についての気付き

町の秋の自然や人々、社会、公共施設などのようすや、自分たちの生活とのかかわりに気付くとともに、自分の町のよさに気付いている。

小単元の目標	活動の概要	主な準備
<p>町に 秋が やってきた (8時間)</p> <p>秋の町探検の計画を立て、目的をしっかりもって意欲的に調べたり体験したりすることを通して、自分の住んでいる町に愛着をもつことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">夏から秋になって変わってきたことを話し合い、町探検の計画を立てる。探検に出かける。学校に帰り、発見カードをかいたり、各グループの情報を交換する。もう一度探検する場所を決め、出かける。	春～夏の町探検の記録 ※その他は、P.30～31参照
<p>秋の 町を 見て きたよ (4時間)</p> <p>秋の町についての自分の思いが友達に伝わる方法を工夫して発表することができるとともに、町のよさに気付くことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">探検カードをかき足して整理したり、発見したことや調べたこと、体験したことや教えてもらったことをまとめたりする。秋の町探検を振り返ったり、調べたり体験したりして得た感動や発見の喜びを自分なりの方法で表現する準備をする。発表会をして、調べたことや気付いたことを発表し合ったり、やってみたいことをお互いに教え合ったりする。	絵地図、発表のための視聴覚機器、発表のための材料（模造紙、マジック、クレヨン、色鉛筆、画用紙、色紙など）
<p>のりものに のって 出かけよう (活動別案)</p> <p>身近な地域から活動範囲を少し広げ、目的地に合った公共交通機関を利用して出かけ、目的地での活動を楽しむことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">乗り物に乗って出かける計画を立てる。駅やバス停へ、必要なことを調べに行くとともに、探検へ出かける準備をする。探検に出かけ、自分たちが計画した活動を行う。楽しかったことや自分たちが見つけてきたことなどをまとめ、発表する。	バスや電車の時刻表、カード、バインダー、交通機関への協力依頼、打ち合わせ

計画上の留意点

○実感を大切にした子どもの活動を保証するために

一人ひとりの子どもの思いや願いの実現に向けて、子どもが探検する商店街や公共施設などへ事前に連絡し、探検の目的や子どもへの対応のしかた、体験の有無などについて細かく打ち合わせをしておくようにしたい。

探検グループは同じ思いの子どもたちでグループをつくるようにする。各グループの安全を十分配慮するために、T・Tでの支援が有効である。保護者にも協力を呼びかけたい。

○人とのふれあいからの学びを大切に

地域への愛着は、身近な自然の不思議さやすばらしさだけでなく、地域の人々や友達との交流の中で芽生える。町探検では人とふれあう楽しさや喜び、人とのふれあいを通して自然にかかわる活動などを大切にしていきたい。

評価規準		
生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き
①秋の自然や町、人々の生活のようすに関心をもち、人々とかかわって探検しようとしている。 ②公共物や公共施設をルールやマナーを守って大切に利用しようとしている。	①場所やもの、人々とのかかわり、見つけたことや気付いたことなどを絵やカードに書き表すことができる。 ②公共物や公共施設の利用のしかたについて考え、安全に利用することができる。	①秋の自然や町、人々の生活のようすに気付いている。 ②町には、公共物や公共施設があり、それを支える人々がいるということがわかっている。
③秋の町探検で見つけたことや気付いたこと、体験したことなどを友達に伝えようとしたり、友達の発表を聞こうとしたりしている。	③秋の町探検で見つけたことや気付いたことなどを、絵や文などで自分なりに表現したりまとめたりすることができる。	③秋の町探検や人々とのかかわりを通して、町のよさに気付いている。
④ルールやマナーを守って、乗り物や駅を安全に正しく利用しようとしている。	④乗り物や駅の安全で正しい利用のしかたを考えたり、友達と仲よく協力して行動するにはどうしたらよいかを考えたりすることができる。	④乗り物や駅を安全に正しく利用するための方法や守るべきマナーについて気付くとともに、乗り物や駅にはそれを支える人々がいるということがわかっている。

こんな すてきな 町なんだ

教科書下P.56~69
12時間/11~1月

単元の目標

冬の町を探検したり、1年間の町探検のまとめをしたりすることを通して、自分の生活が町の人々や様々な場所とかかわっていることがわかり、自分たちの町のよさに気付いたり、町への愛着を広げたり深めたりすることができる。

単元の評価規準

●生活への関心・意欲・態度

冬の町のようすに関心をもち、地域の人々や様々な場所に親しみをもってかかわり、1年間の町探検をまとめようとしている。

●活動や体験についての思考・表現

地域の人々や様々な場所と適切にかかわることや、安全に生活することについて考え、町探検で気付いた町のよさなどについて、自分らしい方法でまとめ、表現することができる。

●身近な環境や自分についての気付き

町の冬の自然や人々、社会、公共施設などのようすや、自分たちの生活とのかかわりに気付くとともに、町のよさに気付いている。

小単元の目標	活動の概要	主な準備
<p>町に 冬が やってきた (3時間)</p> <p>春から秋のころと比べながら町や身近な自然を調べ、季節の変化にともなって自然や暮らしのようすが変わってきたことに気付くことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">秋から冬になって変わったことを見つけ、この1年間の町探検を振り返り、「町のすてきなところ」を探す計画を立てる。探検に出かける。学校に帰り、発見カードをかいたり、各グループの情報を交換したりする。	春～秋の町探検の記録 ※その他はP.30～31参照
<p>わたしは 町はかせ (5時間)</p> <p>1年間の町探検をまとめることを通して、季節の変化にともなって町や自分たちの生活、自然のようすが変わっていくことや町のよさに気付き、それらについて相手にわかるように工夫して伝えることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">以前の探検カードや地図などの作品を整理したり、町のすてきなところを紹介したりして、1年間の町探検を振り返る。1年間の町探検を振り返り、「町のすてきなところ」についてまとめ、作品をお互いに見せ合い、意見交換する。	春～冬の町探検の記録、絵地図、発表のための視聴覚機器、記録をまとめるための材料（模造紙、マジック、クレヨン、色鉛筆、画用紙、色紙など）
<p>わくわく タウンフェスタ！ (2時間)</p> <p>町探検のまとめを自分なりの方法で表現し、みんなと一緒に町のよさに気付くことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">「わくわくタウンフェスタ！」の準備や最終確認をする。「わくわくタウンフェスタ！」を行う。「わくわくタウンフェスタ！」の感想や町のよさについて発表する。	町探検の記録、絵地図、発表のための視聴覚機器、招待状と事前の打ち合わせ（ゲストを招く時）
<p>もう すぐ 冬休み (適切な時期に 2時間)</p> <p>冬休みの目当てを決め、健康で規則正しい生活を送り、家庭での役割を決め、しっかり果たすことができる。また、身近な地域と積極的にかかわり、楽しく冬休みを送ることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">冬休みの楽しさや、やってみたいことについて話し合う。住んでいる町の冬のよさについて話し合う。「冬休みのしおり」を作る。	1年生の時や夏休みの時の記録、学校行事予定表、地域行事予定表、冬休みのしおり・計画表（色画用紙、はさみ、のり、マジック、クレヨンなど）

計画上の留意点

○こだわりをもって冬の町探検を

冬の町探検は、漠然と町に出ても発見や楽しさを味わうことはなかなか難しく、「商店街で冬しかないというのを見つけてこよう」など、調べたいという意欲やこだわりをもって行くことが探検の質を決めることになる。事前に町のようすを調べておき、必要に応じて支援できるようにしておきたい。

○人とのふれあい・かかわりを大切に

子どもの心のときめきや充実感は、人とのふれあいを通して感じることが多い。あせらずゆったりと接してくれる地域の人々との交流は、人とのかかわりが苦手な子どもにとって優しさや温かさを感じられる体験であり、自分のよさの発見につながるので、本単元では人との交流を特に大切にしたい。

○他教科との関連を

1年間の探検をまとめる場面では、子どもは自分にあった方法で表現する。絵や文、新聞、歌や劇、実物を見せながらなど、非常に多様な表現方法がなされるので、他教科との関連をはかりながら授業を行うことが自然であろう。国語や音楽、図画工作などで培われた力を生かす表現活動の場としての関連をはかりたい。

評価規準		
生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き
①冬の自然や町、人々の生活のようすに関心をもち、自分なりの目的をもってかかわったり、体験したりしようとしている。	①町のようすで、見つけたことや気付いたことなどを絵やカードにかき表すことができる。	①冬の自然や町、人々の生活のようすに気付いている。
②1年間の町探検で見つけたことや気付いたこと、町のよさなどを自分なりに表現したり、まとめたりしようとしている。	②季節の移り変わりにともなう自然や生活の変化、町のよさなどについて表現することができる。	②季節の移り変わりにともない、自然のよさや町、自分たちの生活が変わっていることや、町のよさに気付いている。
③町について自分で発表したり、友達や地域の人などと発表を楽しもうとしている。	③町についての思いや願い、町のよさなどを自分なりの方法で表現することができる。	③自分たちの町のよさや地域を支えている人について気付いている。
④友達や先生と元気よくあいさつしたり、意欲的に話したりしようとしている。	④自分なりに工夫して「冬休みのしおり」を作ることができる。 ⑤冬休みのよさをカードなどに記入してまとめることができます。	④地域と様々なかかわりをもって生活をすると楽しいということに気が付いている。 ⑤冬休みを終わって自分ができることが増えていることに気付いている。

みんな 大きくなつたよね

教科書下P.70~80
17時間/1~3月

単元の目標

大きくなつたこと、できるようになったこと、役割が増えたことを実感し、それには多くの人々の支えがあったことに気付き、これまで成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、これから自信をもつて意欲的に生活することができるようとする。

単元の評価規準

●生活への関心・意欲・態度

自分の成長に興味・関心をもち、成長を喜び、自信をもって意欲的に生活しようとしている。

●活動や体験についての思考・表現

自己や友達の成長のようすを知り、それらをまとめ、お互いの成長を喜び合うことができる。

●身近な環境や自分についての気付き

自分のこれまでの成長には、多くの人々の支えがあったことに気付いている。

小単元の目標	活動の概要	主な準備
<p>じぶんたんけんに しゅっぱつだ (3時間)</p> <p>自分が小さかったころのことを調べたり追体験したりしながら、自分の成長に気付き、喜びを感じることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">小さかったころのことで覚えていることを話し合ったり、写真などを見たりしてそのころの自分に関心をもち、当時のことを調べる方法を話し合う。小さいころに使っていた物を持ち寄ったり、家の人にそのころのことを聞いたりする。保育園や幼稚園に行って園児と一緒に遊んだり、小さいころの自分を知っている人をたずねたりして、そのころのことを確かめる。	教師の小さいころの写真や生活用具、保護者への協力依頼（家庭から借りられるものがあればお願ひする：幼児期の写真、衣類、おもちゃ、くつ、哺乳瓶など）、沐浴人形、幼稚園・保育園への協力依頼、記録カード
<p>できるように なつたよ (4時間)</p> <p>小さいことと比べて、できるようになったことのなかから、得意なことやみんなに自慢したいことを見つけて発表会をし、お互いのよさに気付くことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">できるようになったこと、得意なことを探す。それらを発表する会を計画したり、準備したりする。発表会をし、活動を振り返って感想を話し合う。	招待状と協力依頼（ゲストを招いて「できるようになったよ」発表会を行う場合）、2年間の作品やカード、発表会に使う道具（ボール、楽器など）
<p>じぶんの ものがたりを まとめよう (6時間)</p> <p>自分の成長について、身近な人から聞いたことや小さいころの写真や作品などをもとに、好きな方法でまとめ、自分らしい成長の記録を作ることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none">集めた資料のまとめ方を考える。思い出の作品づくりをする。<ul style="list-style-type: none">コメントを書き加えたり、足りない部分を作成したりする。友達と見せ合いながら、補充する。完成した作品を交換して見せ合い、コメントをかいてもらったり、感想を話し合ったりする。	作品づくりの材料（色画用紙、カード類、マジック、粘着テープ、製本用テープ、色紙など）

計画上の留意点

○活動の場や支援体制の工夫

できるようになったことを発表する場面は、教室だけでなく体育館や特別教室など、多様に考えられる。指導者も、担任以外の教師、社会人講師らとのT・T体制など、工夫することができる。

○家庭環境への配慮

小さかったころを振り返る活動では、各家庭への配慮を十分に行う必要がある。単元に入る前に、活動内容を家庭に伝え、理解を得るとともに、不都合がある場合は連絡をもらうようにしたい。また、必ず生まれた時まで振り返る必要はなく、子どもの実状に合わせた活動を行うようにする。

○豊かな表現活動

本単元では画一的な発表を避け、五感を駆使した動的な活動を取り入れたい。発表会では他学年や幼稚園児、家族や地域の人々などを招待し、一緒に活動できる場をもつことが望ましい。作品の交流に際しては、相互評価や保護者の励ましなどを取り入れ、その子なりの成長やよさを認めてやりたい。

評価規準		
生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き
①小さいころのことに関心をもち、楽しんで調べようとしている。	①小さいころのことを調べる方法を見つけ、資料を集めたり記録したりすることができる。	①いろいろな場面で、現在の自分や友達が成長していることに気付き、喜びを感じている。
②できるようになったことのなかから、自分の得意とすることを見つけ、意欲をもって、発表しようとしている。	②招待状やプログラム作り、発表会の練習などに、工夫して取り組むことができる。	②自分や友達には、できるようになったことがたくさんあることに気付いている。 ③成長したのは自分だけでなく、友達にも同じような成長があったことに気付き、互いのよさを認め合っている。
③楽しそうにアルバムなどの成長記録作りに取り組み、製作の過程に喜びを感じている。	③自分の成長をどのようにまとめるのがよいか、さまざまなアイデアを出し、自分らしい工夫をしてまとめることができる。	

小単元の目標	活動の概要	主な準備
<p>おれいの 気もちを つたえよう (2時間)</p> <p>自分の成長には多くの人々の支えがあったということに気付き、それらの人々に感謝の気持ちを伝えることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> お世話になった人たちに伝えたいメッセージを考える。 メッセージを作ったり届ける準備をしたりする。 メッセージを届けたり、招待してお礼の会をしたりする。 活動を振り返って感想をまとめる。 	お礼の気持ちを伝える手紙や作品を作る材料（便箋、色紙、色画用紙、カード類、マジック、粘着テープ）、招待状と協力依頼（お礼の会を行う場合）
<p>あしたに むかって… (2時間)</p> <p>3年生になる喜びや決意を自分の言葉で表現し、これまでの成長を友達とともに喜び合い、自信をもって意欲的に生活することができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1年間の活動を振り返る。 3年生になる夢や決意をカードなどに書いて発表する。 作品を掲示したり、教室をきれいにしたりする。 	夢や決意を書く短冊やカード、マジック、色紙、色画用紙、2年間の作品やカード、活動の記録（ビデオ、写真）



発展的な学習内容について

●学習指導要領の改正により、発展的な学習内容が教科書で記述できるようになりました。

①「発展的な学習内容」の考え方

- ア 学習指導要領の目標、内容の趣旨を逸脱するものでないこと
- イ 児童生徒の発達段階に適応しており、負担過重となるものであること
- ウ 主たる学習内容との適切な関連を有するものであること

② ①の考え方に基づき、以下のような内容を記述することが可能

- ア 学習指導要領において、当該学年、科目、分野又は言語の学習内容とされていない内容
- イ 学習指導要領において扱い方が制限されている内容

●左記のような基本的な考え方に基づき、本教科書では、以下のような内容を紹介しています（マークを付けています）。

・上P.106～107「もっと くさばなはかせ」

栽培活動からの発展として紹介しています。計測、拡大、比較など理科的な視点を入れました。栽培活動の途中にあつかうことを想定しています。

・上P.110～111「くっきんぐ こうなあ」

野菜の栽培活動は、料理活動によって完結する場合が多いですが、学習指導要領に料理についての記述がないため、今までには深入りできませんでした。ここでは料理の例を豊富に紹介しますので、資料的にお使いいただけます。

・下P.31やってみよう「たまごを うんで ほしいな。」

ビオトープを利用して、継続的、総合的に生き物と関わる内容です。時間的に長期にわたること、活動内容が広がることも配慮して「発展」としています。下P.94～95「もっと こんちゅうはかせ」にもつながります。

		評価規準	
	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き
	④お世話になった人々に感謝の気持ちをもっている。	④感謝の気持ちや成長の喜びを、作品やコミュニケーションで表すことができる。	④自分や友達の成長を自覚し、そこには家族や周りの人々の支えがあったことに気付いている。
	⑤自分の成長を喜び、3年生に向けて自信をもって進級しようとしている。	⑤友達とお互いの成長を喜び、自分の夢や抱負を発表したり、カードなどに表現したりできる。	

- ・下P.90～91「わたしたちの ごみ だいさくせん」
町探検や学校の中で目にする「ごみ」や「リサイクル」に関する内容から環境問題を意識して「発展」としたものです。P.90にある「つかえるものは もういちど つかうよ」は、様々な製作活動にも関連してあつかえます。
- ・下P.94～95「もっと こんちゅうはかせ」
飼育活動から発展して、昆虫についてさらに詳しくあつかった内容です。また、カブトムシ、スズムシの飼育は学年をこえた活動になるため「発展」としています。

●「発展的な学習内容」の配当時間

「ゆとりの時間」から、必要に応じて確保していただきますよう、お願い致します。詳細な活動事例については、平成17年発行予定の指導書を御覧下さい。

